

こども未来学科
令和 7 年度 1 学年用 前期シラバス

筑波研究学園専門学校

令和7年度 1学年 前期シラバス

目 次

こども未来学科 こども保育コース・こどもスポーツコース・こども音楽コース

【教科目名】	【授業科目名】	ページ数
教養科目		
	英語コミュニケーション	1
	情報リテラシー	2
	接遇マナー	3
保育の本質・目的に関する科目		
	保育原理	4
	教育原理	5
	こども家庭福祉	6
	保育者論	7
保育の対象の理解に関する科目		
	発達心理学	8
	こどもの理解と援助	9
	教育心理学	10
保育の内容・方法に関する科目		
	指導法「人間関係」	11
	指導法「言葉」	12
	乳幼児保育Ⅰ	13
	保育実技Ⅰ	14
	音楽表現Ⅰ	15

授業科目名：英語コミュニケーション		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：30H
教養科目		・外国語	
唐澤 優江	[実 務 経 験]インターナショナルキッズアカデミー課外バレエクラス担当 [研究テーマ]異文化コミュニケーション分野		
授業の到達目標及びテーマ 近頃では幼稚園や保育園に外国人のこどもが入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本授業では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目的とする。			
授業の概要 小学校における外国語活動の導入も念頭に入れ、英語の基本的知識の復習に始まり英語絵本の読み聞かせが出来るような英語力の育成を目指す。			
授業計画 1. 英語の文法 ①動詞、形容詞・副詞 2. " ②比較、代名詞、疑問詞 3. " ③進行形、完了形、受動態 4. 英語の基礎構文 ①5文型 5. " ②修飾語句 6. " ③接続詞、仮定法 7. 入園準備 8. 登園・降園 9. 室内遊び 10. 外遊び 11. 健康・病気・けが 12. 運動・お散歩 13. 食事 14. 工作・お絵かき 15. おたより・行事			
テキスト 「英語コミュニケーション」能勢規子／著（豊岡短期大学）			
参考書・参考資料等 「新 保育の英語」森田和子／著（三修社）			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：情報リテラシー		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：30H
教養科目		・外国語、体育以外の科目	
野口 孝之	[研究テーマ]情報教育分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
皆川 龍吾	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の到達目標及びテーマ			
情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を習得する。そして、情報化に主体的に対応するための基礎的な知識について理解を深め、コンピュータの操作・利用、及び情報の活用と情報モラルに関わる技術的なスキルを身に付けることを目標とする。			
授業の概要			
コンピュータはビジネス現場ばかりでなく日常生活にまで浸透している。この授業では、これからの生活で最低限度習得しておかなければならない情報活用能力を身に付ける。特にコンピュータの日本語入力についての基本操作、応用操作を扱う。			
授業計画			
1. コンピュータの基礎知識 起動・終了各部名称と操作方法等 アプリケーションソフトの機能と役割			
2. DX概論～DXとは～			
3. DX概論～保育におけるDX化～			
4. 情報化社会の到来、コンピュータの発展			
5. 日本語入力方法の基礎 ビジネス文書の作成			
6. 保育行政のDX化～子育て支援に対するDX化～			
7. 保育行政のDX化～保育事務業務軽減に対するDX化～			
8. 日本語文書作成における基礎			
9. 日本語文書作成における応用			
10. コンピュータのしくみとハードウェア ソフトウェア ～アプリケーションソフト～			
11. インターネットのしくみ インターネットの活用			
12. ネットワークと情報モラル(teamsのホワイトボードを活用した学生を主体の活動)			
13. ネットワークと情報モラル(teamsのホワイトボードを活用した学生を主体の活動)			
14. WordとExcelの活用			
15. 問題演習・課題作成			
テキスト			
「情報リテラシーと処理技術」三木紘武／著（豊岡短期大学）			
参考書・参考資料等			
「30時間でマスターWord & Excel 2019」実教出版企画開発部／著（実教出版）			
「情報活用試験3級公式テキスト」一般財団法人職業教育・キャリア教育財団／著（実教出版）			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：接客マナー		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：30H
教養科目		・接客マナー	
松田 静佳	[実 務 経 験]保育士・幼稚園教諭・一般企業における新人研修		
授業の到達目標及びテーマ 社会人として求められる基本的な知識や心構え、コミュニケーションなどサービス接客に関する実践力を身に付け、実社会で役立つ様々なマナーを学ぶ。そして、6月10日（土）に実施されるサービス接客検定（3級）試験への合格を目標とする。			
授業の概要 社会人として求められるマナーの基本を学習する。様々なマナーを臨機応変に、心を込めて実践できることを目指す。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション ～マナーの歴史と本質(学生と社会人の違い)～ 2. 専門知識 ①サービスの意義 3. " ②サービスの機能 4. " ③サービスの種類 5. 一般知識：社会常識/時事問題 6. 対人技能 ①人間関係/接客知識 7. " ②話し方/服装 8. 実務技能：問題処理/環境整備/金品管理/社交業務 9. 検定試験振り返り 10. 言葉づかいの基礎（話し方／人に与える印象／尊敬語・謙譲語の使い分け） 11. 実践演習 ①立つ姿勢・お辞儀の仕方・椅子の立ち座り・名刺交換等 12. " ②電話応対（電話の掛け方・受け方・伝言メモ）、来客応対等 13. 身だしなみのマナー 14. 手紙の書き方 15. 宛名書き			
テキスト 「実社会で求められるビジネスマナー」井上洋子／著（専門教育出版）			
参考書・参考資料等 過去問題、プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育原理		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の本質・目的に関する科目		・保育原理	
湯浅 阿貴子	[実 務 経 験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・保育内容「人間関係」・発達障害児・発達心理分野		
授業の到達目標及びテーマ ・保育の意義及び目的について理解する。 ・保育に関する法令及び制度を理解する。 ・保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ・保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ・保育の現状と課題について理解する。			
授業の概要 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育の質を高めるための方法を学ぶ。さらに、保育の思想と歴史的変遷について学んだ上で、保育の制度を理解し、保育の現状と課題について考察する。			
授業計画 1. 保育の意義と目的 2. 保育の思想と歴史的変遷 ①欧米の保育思想の展開と保育施設の展開 3. " ②わが国における保育の歴史的変遷 4. 乳幼児の発達と保育 5. 保育の内容 ①保育所保育指針における保育の基本 6. " ②幼稚園教育要領における保育の基本 7. " ③幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本 8. 保育の方法 ①環境を通して行われる保育 9. " ②健康保育・安全保育 10. 保育の計画 ①保育所の保育課程と指導計画 11. " ②幼稚園の教育課程と指導計画 12. 現代社会と子育て支援 13. 保育制度と保育サービス 14. 保育所、幼稚園、小学校の連携 15. 人権保育			
テキスト 「保育原理」栗岡あけみ・和田真由美／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 プリントなどを講義時に配布。			
学生に対する評価 提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：教育原理		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の本質・目的に関する科目		・教育原理	
教育の基礎的理解に関する科目		イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	
木村 祐介	[実務経験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
松田 静佳	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ ・教育の意義、目的及びこども家庭福祉等との関わりについて理解する。 ・教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 ・教育の制度について理解する。 ・教育実践の様々な取り組みについて理解する。 ・生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。			
授業の概要 教育の基本概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が営まれ変遷してきたかを理解する。また、こども家庭福祉とのかかわりについても理解する。さらに現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。			
授業計画 1. 教育の意義、目的及びこどもの家庭福祉等との関連性 ①教育の意義と目的 2. 〃 ②乳幼児の教育の特性、教育とこども家庭福祉 3. 教育の思想と歴史的変遷 ①ソクラテス、コメニウス 4. 〃 ②ペスタロッチ、ルソー 5. 〃 ③ヘルバルト、他 6. フレーベルと幼児教育 7. デューイの児童中心主義 8. 日本の教育の思想と歴史 9. 教育の制度：教育制度の基礎（学校教育と教師像） 10. 諸外国の教育制度 11. 教育の実践：教育の実践の基礎（内容・方法） 12. 教育の実践の基礎（計画と評価） 13. 教育実践の多様な取り組み 14. 生涯学習社会における教育の現状と課題 ①生涯学習社会と教育 15. 〃 ②現代の教育課題			
テキスト 「教育原理」菅原健太・伊藤美和子・渡邊舞・明田川知美／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：こども家庭福祉		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の本質・目的に関する科目		・こども家庭福祉	
太田 裕子	[実 務 経 験]特別支援学校教諭・日本語教師 [研究テーマ]社会的養護・社会福祉・障害児保育・教育・学校教育分野		
授業の到達目標及びテーマ ・現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 ・こどもの人権擁護について理解する。 ・こども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 ・こども家庭福祉の現状と課題について理解する。 ・こども家庭福祉の動向と展望について理解する。			
授業の概要 本講義ではこども家庭福祉の意義や歴史の変遷、保育との関連性、法制度、実施体系などについて体系的に学び、今日のこども家庭福祉の現状と課題について理解を深める。			
授業計画 1. 現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史の変遷：こども家庭福祉の理念と概念 2. こども家庭福祉の歴史の変遷 3. 現代社会とこども家庭福祉 4. こどもの人権擁護：こどもの人権擁護の歴史の変遷と現代社会における課題 5. 児童の権利に関する条約 6. こども家庭福祉の制度と法体系 7. こども家庭福祉の実施体系 8. 児童福祉施設とこども家庭福祉の専門職 9. こども家庭福祉の現状と課題：少子化と地域子育て支援 10. 母子保健とこどもの健全育成 11. 多様な保育ニーズへの対応 12. 虐待、DVとその防止、障害のあるこどもへの対応 13. 少年非行等への対応 14. 貧困家庭、外国籍のこどもとその家庭への対応 15. こども家庭福祉の展望			
テキスト 「こども家庭福祉」武田英樹・岡村健太・奥典之・北村博・蜂谷俊隆／著（豊岡短期大学） 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「保育者養成シリーズ」			
学生に対する評価 提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育者論		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の本質・目的に関する科目		・保育者論	
教育の基礎的理解に関する科目		ロ 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）	
松田 静佳	[実 務 経 験]幼稚園教諭・保育士		
授業の到達目標及びテーマ			
・保育者の役割と倫理について、教育の動向も踏まえ理解する。 ・保育者の制度的な位置づけを理解する。 ・保育者の職務内容、専門性について考察し、理解する。 ・保育者の連携・協働について理解する。 ・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 ※保育者：教員より広い概念 幼稚園教諭含む。			
授業の概要			
乳幼児の育ちを専門的に支援する役割をもつ保育者について、総合的に理解する。保育者をめぐる制度的な位置づけ、保育者の専門性と資質、保育者の協働体制等について実践的に理解するとともに、保育者の専門的なキャリア形成について理解を深める。			
授業計画			
1. 保育者の役割と倫理 ①役割・職務内容			
2. 保育者の役割と倫理 ②倫理			
3. 保育者の制度的位置づけ：保育者の定義・資格・要件（児童福祉法、学校教育法）			
4. 欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等			
5. 保育者の専門性 ①法律・制度			
6. " ②資質・能力			
7. 養護と教育の一体性 ①養護・教育とは			
8. " ②保育における養護的側面・教育的側面			
9. 家庭との連携 ①連携の意義			
10. " ②支援の在り方			
11. 保育者の連携・協働：職員間の連携・協働			
12. 専門職観及び専門機関、関係機関等との連携・協働			
13. 保育者の資質向上とキャリア形成			

授業科目名：発達心理学		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の対象の理解に関する科目		・保育の心理学	
教育の基礎的理解に関する科目		二 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程	
佐々木 将人	[実務経験]臨床心理士 [研究テーマ]心理学分野		
授業の到達目標及びテーマ			
・保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ・こどもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となるこどもへの理解を深める。 ・乳幼児期のこどもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、人間関係や体験、環境の意義を理解する。 ・発達を踏まえた学習を支える指導について基本的な考え方を理解する。			
授業の概要			
乳幼児期のこどもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、こどもの発達に関わる心理学の基礎を学び、保育における養護及び教育の一体性や環境の意義の理解を深める。			
授業計画			
1. 発達を捉える視点：こどもの発達を理解することの意義 2. こどもの発達と環境 ①発達の定義、生涯発達という見方、発達の原理 3. " ②発達段階と発達課題、遺伝と環境、人間の発達に関する理論 4. 発達理論とこども観・保育観 ①発達のイメージから考える発達観 こどもとのかかわりに現れる発達観とこども観 5. " ②保育者の願いと発達観・保育観 こどもをこどもの側から見る・見えないものを見るために 6. こどもの発達過程：社会情動的発達 ①自己と感情、他者理解 7. " ②他者とのかかわり 8. 身体的機能と運動機能の発達 9. 認知の発達 ①認識の基礎 10. " ②数と形 11. 言語の発達 ①新生児期、乳児期 12. " ②幼児期、児童期 13. こどもの学びと保育 ①乳幼児期の学びに関わる理論 14. " ②乳幼児期の学びの過程と特性 15. " ③乳幼児期の学びを支える保育			
テキスト			
「発達心理学」上長然／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「史上最強図解よくわかる発達心理学」林洋一／監修（ナツメ社）			
学生に対する評価			
提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：こどもの理解と援助		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の対象の理解に関する科目		・子どもの理解と援助	
木村 祐介	[実 務 経 験] 小学校教諭 [研究テーマ] 教育学分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 保育実践において、実態に応じたこども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ・ こどもの体験や学びの過程においてこどもを理解するうえでの基本的な考え方を理解する。 ・ こどもを理解するための具体的な方法を理解する。 ・ こどもの理解に基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。			
授業の概要			
保育実践においてこども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を理解し、こどもの理解するうえでの基本的な考え方、具体的方法について学び、それに基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。			
授業計画			
1. 保育におけるこども理解の意義 2. こどもに対するかかわりと共感的理解 3. こどもの生活や遊び 4. 保育の人的環境としての保育者とこどもの発達 5. こども相互のかかわりと関係づくり 6. 集団における経験と育ち 7. 発達における葛藤やつまずき 8. 保育の環境の理解と構成 9. 環境の変化や移行 10. こども理解のための観察・記録と省察・評価 11. こども理解のための職員間の対話 12. こども理解のための保護者との情報共有 13. 発達の課題に応じた援助とかかわり 14. 特別な配慮を要するこどもの理解と援助 15. 発達の連続性と就学への支援			
テキスト			
「発達心理学」上長然／著（豊岡短期大学） 「教育心理学」稲田達也・鈴木由美・大塚貴之・大西清文／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
随時紹介する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：教育心理学		授業形態：講義 ＋集中	単位：２単位 (１単位は集中) 授業時間数：30H
教育の基礎的理解に関する科目		二 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の課程	
野口 孝之	[研究テーマ]発達心理・教育心理・教育相談・保育内容「人間関係」分野		
青柳 賢治	[実務経験]スクールカウンセラー・教育相談員 [研究テーマ]教育心理・発達心理・教育相談分野		
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
授業の到達目標及びテーマ 教育心理学は、教育や人の発達について心理学的に理解していく学問である。 本講義は、発達・学習・人格・教育評価など教育心理学の基礎的知識を習得し、これらの知識を専門家として保育実践に生かす力を担保するものである。発達・学習・人格・適応・評価という教育心理学の基礎について、その概要を説明できること、さらに、教育・保育場面を心理学的観点から分析し、保育実践に応用できることを目標とする。			
授業の概要 この講義ではこどもの心身の発達についての理解を深め、保育実践に役立てられる心理的理論を身につけることを目標とする。心理学的な側面から生活と遊びを通して学ぶこどもの経験や学習の過程を見つめることは保育現場における効果的な発達援助につながる。			
授業計画 １．教育心理学とは何か ２．発達の原理と発達段階 ３．発達と遊び ４．各発達段階における発達課題　①幼児期、児童期、青年期 ５．　　　　　　　　　　　　　　　　　　　②壮年初期、中年期、老年期 ６．発達段階　①新生児期と乳児期　②幼児期 ７．記憶と学習 ８．学習理論 ９．学習指導 10．学習の動機付け 11．発達障害とその支援 12．パーソナリティ理論 13．適応と欲求 14．防衛機制と不適応行動 15．教育の評価と測定方法			
テキスト 「教育心理学」稲田達也・鈴木由美・大塚貴之・大西清文／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 随時配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：指導法「人間関係」		授業形態：演習 (集中)	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・保育内容演習	
領域および保育内容の指導法に関する科目		イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
湯浅 阿貴子	[実 務 経 験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・保育内容「人間関係」・発達障害児・発達心理分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 保育の内容が相互に関連性をもつことを理解した上で、領域「人間関係」の位置付けを確認しながら、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 ・ 保育所保育指針における「乳児保育の3つの視点」と、「1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域」を通してこどもの発達を捉え、こどもに対する理解を深めながら、人とのかかわりに関する領域「人間関係」について具体的に理解する。 ・ こどもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、言葉の獲得や児童文化財に親しむための保育環境の整備など、保育に当たって保育者が留意、配慮すべき事項を理解する。 ・ こどもの発達を理解し、発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解する。			
授業の概要			
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりを通じた人間関係の発達についてエピソードを取り上げ解説する。また、保育者としてどのようにこどもと人との関わりを育てていくのか、考察していく。			
授業計画			
1. 領域「人間関係」	10. "	⑥集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫	
" ①ねらいと内容及びその取扱い	11. "	⑦こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫	
2. " ②保育者としての役割	12. "	⑧こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点	
3. 保育者としての環境作りと評価	13. "	⑨こども同士を結び付ける保育者の遊びの役割	
" ①こどもの人間関係を見つめる目と環境設定（情報機器含む）	14. "	⑩こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）	
4. " ②保育構想と指導案（模擬保育）	15. 地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）		
5. こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助 ①対人意識、自己概念の発達			
6. " ②自己理解と他者理解を支える保育者の工夫			
7. " ③個と集団の育ちの姿			
8. " ④こどもの心の拠り所である保育者の工夫			
9. " ⑤人とのかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫			
テキスト			
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
随時配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：指導法「言葉」		授業形態：演習 (集中)	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・保育内容演習	
領域および保育内容の指導法に関する科目		イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
富倉 志保	[実務経験]豪州私立中高等学校・インターナショナルスクール日本語教師 [研究テーマ]保育内容「言葉」・児童文化財・外国語教育分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ			
・保育の内容が相互に関連性をもつことを理解した上で、領域「言葉」の位置付けを確認しながら保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 ・保育所保育指針における「乳児保育の3つの視点」と、「1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域」を通してこどもの発達を捉え、こどもに対する理解を深めながら、言葉の獲得に関する領域「言葉」について具体的に理解する。 ・こどもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、言葉の獲得や児童文化財に親しむための保育環境の整備など、保育に当たって保育者が留意、配慮すべき事項を理解する。 ・こどもの発達を理解し、発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解する。			
授業の概要			
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」のねらいや内容の理解を深めるとともに、乳幼児期の言葉の発達の仕組み、保育者の言葉のあり方、姿勢について学ぶ。			
授業計画			
1. 幼児教育と言葉 ①言葉とは何か・生活と言葉、言葉環境としての保育者の言葉のあり方 2. " ②領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり 3. 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価 ①領域「言葉」指導上の留意点と評価 4. " ②0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み 5. 言葉を豊かに育む活動 ①言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法 6. " ②わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育 7. " ③言葉から文字へ、文字による環境 8. " ④文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作（情報機器活用及び教材の活用）及び模擬保育体験 9. 保育者と言葉のあり方 ①言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援 10. " ②外国のこどもとの対応 11. 言葉を豊かに育む活動 ⑤言語教材としての絵本の意義 12. " ⑥絵本と、デジタル教材と保育現場の実際及び言語教材を用いた指導案の作成 13. " ⑦絵本、お話等の指導法と情報機器の利用について 14. " ⑧絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育 15. 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携			
テキスト			
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 随時配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、授業態度、提出物、試験により総合的に評価する。			

授業科目名：乳幼児保育Ⅰ		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の内容・方法に関する科目		・乳児保育Ⅰ	
大塚 由利子	[実 務 経 験]幼稚園教諭・保育士 [研究テーマ]乳幼児保育分野		
授業の到達目標及びテーマ			
・乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 ・保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※乳児保育とは3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
授業の概要			
乳幼児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割を理解し、多様な保育の場における乳幼児保育の現 状と課題について理解する。そして職員間の連携・協働、保護者と地域社会との連携についても理解 する。			
授業計画			
1. 乳児保育の意義・目的と役割：乳児保育の意義・目的と歴史的変遷、乳児保育の役割と機能			
2. 乳児保育における養護及び教育			
3. 乳児保育の現状と課題 ①乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題			
4. " ②保育所における乳児保育			
5. " ③保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育			
6. " ④家庭的保育等における乳児保育			
7. " ⑤3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場			
8. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育			
①3歳未満児の生活と環境			
9. " ②3歳未満児の遊びと環境			
10. " ③3歳以上児の保育に移行する時期の保育			
11. " ④3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり			
12. " ⑤3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮			
13. " ⑥乳児保育における計画・記録・評価とその意義			
14. 乳児保育における連携・協働			
①職員間の連携・協働			
15. " ②保護者との連携・協働			
③自治体や地域の関係機関等との連携・協働			
テキスト			
「乳幼児保育Ⅰ」國光みどり・倉本洋子・鈴木富美子・山中ます子／著（豊岡短期大学） 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
随時配布する。			
学生に対する評価			
提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育実技Ⅰ		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
保育の内容・方法に関する科目		・保育実技Ⅰ	
松田 静佳	[実務経験]幼稚園教諭・保育士		
皆川 龍吾	[実務経験]幼稚園教諭		
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
授業の到達目標及びテーマ			
手遊びや絵本または紙芝居等の導入のあり方や提供の仕方について学ぶ。また、乳幼児の発達段階を踏まえた“遊び”を学び、実際の保育展開について理解する。また、その時々への援助・配慮について考察し、保育者としての知識と技術・技能を身に付けることを目標とする。			
授業の概要			
教育実習・保育実習・施設実習に向け、保育実技の向上を目指す。こどもの遊びにはどのような意味があるのかを考えながら絵本をはじめ、昔話やわらべうた、手遊び等、伝承されてきた豊かな遊びの文化を学び、遊びの本質を理解し、こどもの成長や発達段階に合わせた“こども本来の遊び”を創造できる力を培う保育を行うための授業を展開する。			
授業計画			
1. 授業オリエンテーション・教材紹介			
2. 制作・歌遊び		①季節の折り紙	②遊び歌・リズム体操
3. 制作・歌遊び		①ペープサート制作	②ペープサート遊び方
4. 制作・歌遊び		①指導案作成	②ペープサート実演
5. 季節に触れる		①季節の行事調べ	②季節の行事制作
6. 自然に触れる		①食育、畑作り	②さつまいもの苗植え
7. 日本の伝承遊び		①昔話	②わらべうた
8. 日本の伝承遊び		①切り紙制作	②カード作り
9. コース体験		①②各コースに分かれての制作・運動遊び体験	
10. コース体験		①②各コースに分かれての制作・運動遊び体験	
11. コース体験		①②各コースに分かれての制作・運動遊び体験	
12. 絵本・手遊び		①絵本の選び方	②読み聞かせ
13. 絵本・手遊び		①名札計画	②名札制作
14. 絵本・手遊び		①指導案	②名札制作
15. 絵本・手遊び		①指導案	②名札制作
さつまいも栽培 ↓			
テキスト			
「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房） 「手あそび百科～ピアノ伴奏つき～」植田光子／編著（ひかりのくに） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：音楽表現Ⅰ		授業形態：演習	単位：3単位 授業時間数：90H
保育の内容・方法に関する科目		・音楽表現Ⅰ	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
倉田 照子	[実務経験]小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・児童合唱団主宰 [研究テーマ]教育・保育内容「言葉」・児童文化財分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
重藤 清美	[実務経験]ピアノ講師		
押手 美加	[実務経験]音楽教室講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
柴野 玲子	[実務経験]ピアノ・エレクトーン講師		
塚田 規子	[実務経験]ピアノ講師		
入江 亜矢子	[実務経験]ピアノ講師		
佐藤 いつみ	[実務経験]幼稚園教諭		
関 義夫	[実務経験]ピアノ講師 [研究テーマ]音楽教育分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
片岡 麻衣	[実務経験]中学校教諭・ピアノ講師・リトミック指導員		
授業の到達目標及びテーマ 保育内容を理解し、具体的な音楽表現が展開できる技術と音楽的知識の習得を目的とし、保育内容にそって、こどもの音楽活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成（情緒・表現・鑑賞等）を育成することをテーマに学習する。			
授業の概要 ピアノという楽器の基礎的な技術を身に付けることによってこどもたちとの豊かな音楽表現へ結びつくようにピアノ実技指導を行う。またそれに必要な読譜力も養う。			
授業計画 1. オリエンテーション ピアノ実技及びソルフェージュのレッスン授業としてのガイダンス 2. 基礎演習Ⅰ 合理的なピアノ奏法を学ぶ（個々の習得度を考慮した練習曲を学習する） 3. ピアノ教程、ソルフェージュ教程とも課題曲の形式など楽曲構成にも注目し学習する 4. ～12. ピアノ曲とソルフェージュの継続的練習（個人レッスン） 13. 発表会形式によるプレテスト （ピアノ演奏、ソルフェージュともにこれまでの成果を互いに聴く） 14. プレテストの課題をもとに練習 15. 〃 ※ただし、ピアノ経験者については、各々に合わせて課題を決定する			
テキスト こどもの指導法「音楽表現」西野洋子 茨木金吾 國光みどり 石川ますみ 田上栄美子 菅原峰子／編（豊岡短期大学）			
参考書・参考資料等 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会／編著（音楽之友社） 「こどものうた200」小林美実／著（チャイルド本社）弾き歌いプリントを授業時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、授業態度、実技試験等の結果を総合して評価する。			

TIST

Tsukuba Institute of Science & Technology

こども未来学科
令和7年度1学年用 後期シラバス

筑波研究学園専門学校

令和7年度 1学年 後期シラバス

目 次

こども未来学科	こども保育コース・こどもスポーツコース・こども音楽コース
---------	------------------------------

【教科目名】	【授業科目名】	ページ数
教養科目		
	健康科学	1
	スポーツ（実技）	2
	憲法	3
	情報リテラシーと処理技術	4
保育の本質・目的に関する科目		
	社会福祉論	5
	社会的養護Ⅰ	6
保育の対象の理解に関する科目		
	こどもの発達と家庭支援	7
	こどもの理解と相談支援	8
保育の内容・方法に関する科目		
	保育内容総論	9
	指導法「リズム表現」	10
	子育て支援	11
	教育方法論	12
	介護基礎Ⅰ	13
	介護技術Ⅰ	14
	保育実技Ⅱ	15
	音楽表現	16

授業科目名：健康科学		授業形態：講義	単位：1 単位 授業時間数：15H
教養科目		・体育	
唐澤 優江	[実 務 経 験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師 ピラティスインストラクター・幼児運動指導者 [研究テーマ]幼児体育・舞踊教育分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 日常生活においては、テレビやインターネットなどで健康に関する情報があふれており、国民の健康への関心の深さをうかがうことができる。このような状況の中、高齢化社会を迎えているわが国において、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。本講義では、客観的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康・体力づくりができるようになることを目的とする。			
授業の概要 体力の保持増進は、老若男女を問わず、人生のすべての時期において大切な重要事項である。科学的な健康づくりの方法を理解し、計画的に運動を実践し、生活習慣病にならないための理論と方法を身につけることを目標に学習を進めていく。			
授業計画 1. 健康な生活設計：自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える① 2. 〃 ：自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える② 3. 運動の基礎理論：トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ① 4. 〃 ：トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ② 5. 運動生理学： 運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める① 6. 〃 ：運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める② 7. 救命救急：救急処置についての知識と対処法、AEDの取扱い方を学ぶ① 8. 〃 ：救急処置についての知識と対処法、AEDの取扱い方を学ぶ② 9. 運動処方： 運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ① 10. 〃 ：運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ② 11. 運動処方：ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ① 12. 〃 ：ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ② 13. 健康日本21：「健康日本21」から自己の健康への課題を探る① 14. 〃 ：「健康日本21」から自己の健康への課題を探る② 15. 生活と運動：自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを学ぶ			
テキスト 「健康科学」長谷川定宣／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：スポーツ		授業形態：実技	単位：1 単位 授業時間数：30H
教養科目		・体育	
唐澤 優江	[実 務 経 験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師 ピラティスインストラクター・幼児運動指導者 [研究テーマ]幼児体育・舞踊教育分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
中村 容一	[実 務 経 験]健康・体力づくり事業財団研究員 [研究テーマ]健康教育・保育内容「健康」分野 豊岡大学通信教育部教授・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する講義も適宜行い、健康と安全に留意しながら個人的・集团的スポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。各種のスポーツを仲間とともに技能面の向上を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる。また、ニューススポーツも体験・理解する。			
授業の概要 生涯にわたって運動・スポーツを実践することが出来る能力を身に付けることを目的として、ゲームを楽しむために必要な技術習得、ルールを理解を通し、チームワークの大切さ等、人間関係のあり方についても学ぶ。			
授業計画 1. ガイダンス 2. バレーボール ①基本練習 3. " ②応用練習 4. " ③ゲーム・審判 5. 体づくり運動、エアロビクス運動、ダンス 6. バドミントン ①基本練習 7. " ②シングルのゲーム 8. " ③ダブルスのゲーム 9. バスケットボール ①基本練習・応用練習 10. " ②ゲーム・審判 11. 卓球 ①基本練習 12. " ②シングルのゲーム 13. " ③ダブルスのゲーム 14. ニューススポーツを学ぶ（ティーボールなど） 15. ウォーキングとその効果について			
テキスト 「健康科学」長谷川定宣／著（豊岡短期大学）			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：憲法		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
教養科目		・外国語、体育以外の科目	
今泉 圭介	[実務経験]弁護士 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 憲法は「統治機構」と「人権」の二つの部分から成る。この二つは相互に密接に結びついている。すなわち、憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構が作られているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。国家権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が保障される。さらに、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて機能する。憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することが、この授業のテーマである。			
授業の概要 憲法を学習することは、国民・個人の生命・自由・幸福の追求を学ぶことであり、より良き生活条件、人間の尊厳を実現することである。すなわち、「人間」の幸福実現のために「国家」の存在の妥当性を確認する。			
授業計画 1. 憲法と立憲主義・日本憲法史 2. 日本国憲法の構成と基本原理 3. 基本的人権の保障・包括的基本権と法の下での平等 4. 精神的自由権 5. 身体的自由権 6. 経済的自由権 7. 社会権 8. 参政権と国務請求権 9. 統治機構の基本原理 10. 国会と立法権 11. 内閣と行政権 12. 裁判所と司法権 13. 財政 14. 地方自治 15. 憲法改正			
テキスト 「憲法」上田正一／著（豊岡短期大学） 「保育と日本国憲法」橋本勇人／編集(みらい)			
参考書・参考資料等 テキストに示されている資料の他 「ポケット六法」「デイリー六法」「コンサイス六法」などの「六法」			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：情報リテラシーと処理技術		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：30H
教養科目		・外国語、体育以外の科目	
野口 孝之	[研究テーマ]情報教育分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育部課程常勤講師		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
皆川 龍吾	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の到達目標及びテーマ 情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付ける。			
授業の概要 テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習する。			
授業計画 1. Excel 入力的基础 2. Excel 関数を使った計算式① 3. Excel 関数を使った計算式② 4. Excel グラフの作成① 5. Excel グラフの作成② 6. 保育ICTと情報モラル 7. 保育ICTの基本操作 8. 保育ICTの登降園・デイリーボード（学生が所有しているデバイスを利用したコドモンの活用） 9. 保育ICTの連絡帳・健康チェック（学生が所有しているデバイスを利用したコドモンの活用） 10. 保育ICTでの週案作成（学生が所有しているデバイスを利用したコドモンの活用） 11. パソコンの基礎 12. 情報表現と処理手順 13. インターネットの基礎・利用 14. 情報機器の基本操作 15. 情報社会とコンピュータ			
テキスト 「情報リテラシーと処理技術」三木紘武／著（豊岡短期大学）			
参考書・参考資料等 「情報セキュリティ10大脅威2021」 https://www.ipa.go.jp/files/000088835.pdf （独立行政法人情報処理推進機構 2021/2/26現在） 「標準教科書改訂新版よくわかる情報リテラシー」岡本敏雄／監修（技術評論社） 「演習でまなぶ情報処理の基礎」鶴田陽和／編著（朝倉書店）			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：社会福祉論		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の本質・目的に関する科目		・社会福祉	
太田 裕子	[実 務 経 験]特別支援学校教諭・日本語教師 [研究テーマ]社会的養護・社会福祉・障害児保育・教育・学校教育・国語科分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び、社会福祉におけるこども家庭支援の視点、制度、方法などについて学ぶ。			
授業の概要 社会の複雑化とともに私たちの生活スタイルは多様化し、社会福祉に求められるものも大きく変化しつつある。本講義では、社会福祉の理念や制度の歴史的な変遷を整理し、社会福祉の実施体制について理解する。その上で現代社会における課題をもとに、これからの社会福祉と私たちの生活について考える。			
授業計画 1. 社会福祉の理念：共生社会を目指して 2. 社会福祉の歴史的変遷：基礎構造改革への流れ 3. こども家庭支援と社会福祉：日本で里親が根付かないのは 4. 社会福祉の制度と法体系：社会福祉事業法から社会福祉法へ 5. 社会福祉施設 6. 社会福祉の専門職 7. 社会保障と関連制度：こどもの貧困をどう守る 8. 相談援助の理念：当事者主体の推進 9. 相談援助の対象者：虐待をする大人、されたこども 10. 相談援助の方法：コーチング理論はどうして生まれたか 11. 相談援助の過程：評価への道のり 12. 情報提供・個人情報保護・第三者評価・苦情解決 13. 諸外国の動向：施設ゼロ宣言をした国 14. 在宅福祉、地域福祉の推進：ボランティア社会 15. 今後の福祉の在り方：福祉コミュニティづくり			
テキスト 「社会福祉論」武田英樹／著（豊岡短期大学） 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：社会的養護Ⅰ		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の本質・目的に関する科目		・社会的養護Ⅰ	
小林 弘典	[実 務 経 験]児童養護施設長・児童指導員・家庭支援専門相談員		
授業の到達目標及びテーマ			
・現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。			
・こどもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。			
・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。			
・社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。			
・社会的養護の現状と課題について理解する。			
授業の概要			
現代社会における社会的養護の意義や歴史、法制度、実施体系等について学ぶ。そして現状と課題について理解を深める。			
授業計画			
1. 社会的養護の理念と概念			
2. 社会的養護の歴史の変遷			
3. こどもの人権擁護と社会的養護			
4. 社会的養護の基本原則			
5. 社会的養護における保育士等の倫理と責任			
6. 社会的養護の制度と法体系			
7. 社会的養護の仕組みと実施体系			
8. 社会的養護の対象			
9. 家庭養護と施設養護			
10. 社会的養護に関わる専門職			
11. 社会的養護に関する社会的状況			
12. 施設等の運営管理			
13. 被措置児童等の虐待防止			
14. 社会的養護と地域福祉			
15. 保育現場における社会的養護の現状と課題			
テキスト			
「社会的養護」石田易司／著（豊岡短期大学）			
「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
特になし。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：こどもの発達と家庭支援		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の対象の理解に関する科目		・子ども家庭支援の心理学	
佐々木 将人	[実務経験]臨床心理士 [研究テーマ]心理学分野		
授業の到達目標及びテーマ 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期発達の重要性について理解し、保育との関連性について考え、こどもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について理解する。子育て家庭に関する現状と課題を把握し、子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解する。			
授業の概要 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題について理解をする。さらに家庭、家族の意義や機能を理解し、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。			
授業計画 1. 乳児期の発達 2. 幼児期の発達 3. 学童期の発達 4. 青年期の発達 5. 成人期・中年期の発達 6. 老年期の発達 7. 家族・家庭の意義と機能 8. 親子関係・家族関係の理解 9. 子育ての経験と親としての育ち 10. 子育てを取り巻く社会的状況 11. ライフコースと仕事・子育て 12. 多様な家庭とその理解 13. 特別な配慮を要する家庭 14. こどもの生活・生育環境とその影響 15. こどもの心の健康に関わる問題			
テキスト 「こどもの発達と家庭支援」室谷雅美／著（豊岡短期大学） 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「子ども家庭支援の心理学」白川佳子・福丸由佳／編集（中央法規）			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：こどもの理解と相談支援		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の対象の理解に関する科目		・こどもの理解と相談支援	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	
木村 祐介	[実務経験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
授業の到達目標及びテーマ こどもを理解するために、乳幼児の発達及び学びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理について学ぶ。また、その対応の一つの幼児教育（保育）現場における相談支援を学ぶ。より良い教育の方向を求めて指導助言ができる基礎理論と実際について理解する。			
授業の概要 保育実践においてこども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を理解し、こどもを理解するうえでの基本的な考え方、具体的方法について学び、それに基づく保育者の援助や態度の基本について理解する。			
授業計画 1. こどもの実態に応じた発達や学びの把握 2. 相談支援の基本 相談支援の基本・カウンセリングの基本（意義・理論）とカウンセリングの基本的な方法（受容的態度と共感、傾聴） 3. こどもを理解する視点 ①こどもの生活や遊び、保育の人的環境、こども相互の関わり、集団における経験 4. こどもを理解する視点 ②葛藤やつまずき、保育環境の理解と構成、環境の変化や移行 5. こどもを理解する方法 ①知能検査・発達検査・行動観察法、他 6. こどもを理解する方法 ②観察・記録・省察・評価 7. こどもを理解する方法 ③職員間の情報共有、保護者との情報共有 8. こどもの自己理解を進める技法 こどもの自己表現と自己理解の発達 9. 幼児・こども理解とカウンセリング・マインド（実際のカウンセリングと教師の行う相談支援の違いを理解する・教師の行う相談支援の理解を深める 10. 幼稚園・保育園における園児への心理的援助及びその保護者との相談支援 11. 小学校における児童への心理的援助及びその保護者との相談支援 12. 相談支援の実際 ①発達障害、知的障害、自閉・情緒障害、特別な配慮を要するこどもたち 13. 相談支援の実際 ②不登園・不登校、いじめ、虐待・非行と小・中学生の心理アセスメント 14. 相談支援と家庭・学校・地域との連携と相談支援（幼・小の連携、親との連携） 15. 相談支援の課題と対応（教育相談における校内支援体制、相談支援計画の作成）			
テキスト 「こどもの理解と相談支援」 稲田達也・大塚貴之・原田敬文・鈴木由美・原田増廣・室谷雅美／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領」及び「小学校学習指導要領解説書」			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育内容総論		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・保育内容総論	
領域および保育内容の指導法に関する科目		・領域に関する専門的事項 ・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
森山 睦美	[実務経験]保育士・幼稚園教諭 [研究テーマ]乳幼児保育分野		
授業の到達目標及びテーマ 保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。			
授業の概要 領域別の授業で学んだ内容を実際のこどもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な事例をもとに解説する。			
授業計画		9. 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ②遊びによる総合的な保育	
1. 保育の全体的構造 ①育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿		10. 全体的な計画の作成と指導計画の作成 ①全体的な計画の作成	
2. 保育の全体的構造 ②領域の考え方と乳児保育の領域		11. 全体的な計画の作成と指導計画の作成 ②指導計画の作成手順と配慮	
3. 保育内容の歴史的変遷 ①変遷にみる特徴		12. 保育の評価と保育の記録	
4. 〃 ②変遷にみる課題		①幼児理解に基づく評価	
5. 養護と教育の一体的展開 ①養護的なかかわりと教育的なかかわり		13. 保育の評価と保育の記録 ②観察記録を書く意味と幼児理解	
6. 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ①乳幼児にとっての園行事の意味と在り方		14. 保育内容の現代的課題について ①子育て支援	
7. 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ②保幼小の円滑な連携		15. 保育内容の現代的課題について ②多文化共生保育	
8. 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ①環境を通して行う保育			
テキスト「保育内容総論」栗岡あけみ・宿南久美子・和田真由美・位田かづ代／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「3法令改訂（定）の要点とこれからの保育」無藤隆／著（チャイルド社） 「3法令ガイドブック」無藤隆・汐見稔幸・砂上史子／著（フレーベル館）			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：指導法「リズム表現」		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・こどもの指導法「リズム表現」	
領域および保育内容の指導法に関する科目		・領域に関する専門的事項 ・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
鈴木 純子	[実務経験]日本リトミックセンターリトミック指導員 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ			
保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も併せて修得する。表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。			
授業の概要			
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいや内容の理解を深めるとともに、表現する喜びや楽しさを体験し、保育実践に関する知識を理解し保育者として幼児の表現力を高めるための援助の仕方、指導法、技能を学ぶ。			
授業計画			
1. 領域「表現」についての基本的な考え方			
2. 基礎リズム ①基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点			
3. 〃 ②幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解			
4. 基本動作 ①幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践			
5. 〃 ②日常生活表現につながる可能性気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践			
6. タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解 ①童謡やわらべうたについてタブレット等の情報機器や動作カードを活用した多様な振付の実践			
7. 〃 ②幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践			
8. 楽器の製作と活用、製作した楽器を用いての指導案の作成 ①楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用			
9. 〃 ②指導案作成の基礎を理解し、オリジナル楽器を使った指導案の作成			
10. 領域「表現」と小学校教科等のつながり ①オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について ②領域「表現」と小学校教科等とのつながり			
11. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助について、模擬保育の実践と振り返り ①絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践			
12. 〃 ②保育構想発展のための相互発表による振り返り			
13. リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り ①幼児がもつ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの創作			
14. 〃 ②創作したリズム遊びを取り入れた模擬保育の実践			
15. 〃 ③保育構想発展のための相互発表による振り返り			
テキスト			
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「1～5歳のかたんリトミック」神原雅之／著（ナツメ社） 「リズム&ゲームにどっぷり！リトミック77選」神原雅之／編、井上恵理・菅沼邦子・小見英晴・有谷英彰／著（明治図書） 「乳幼児のダンスABC」猪崎弥生・山田悠莉／著（一二三書房）			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：子育て支援		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・子育て支援	
湯浅 阿貴子	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・保育内容「人間関係」・発達障害児・発達心理分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供・行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し身につける。			
授業の概要 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供・行動提示等の支援について理解し、様々な場面での支援の内容と方法及び技術を実践的に理解する。			
授業計画 1. こどもの保育とともに行う保護者の支援 2. 日常的・継続的なかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 3. 保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解 4. こども及び保護者の状況・状態の把握 5. 支援の計画と環境の構成 6. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 7. 職員間の連携・協働 8. 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 9. 保育所等における支援 10. 地域の子育て家庭に対する支援 11. 障害のあるこども及びその家庭に対する支援 12. 特別な配慮を要するこども及びその家庭に対する支援 13. こども虐待の予防と対応 14. 要保護児童等の家庭に対する支援 15. 多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解			
テキスト 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「子育て支援」（新・基本保育シリーズ）西村重稀・青井夕貴／編集（中央法規） 「育つ・つながる 子育て支援 具体的な技術・態度を身につける32のリスト」 子育て支援コンピテンシー研究会／編著（チャイルド本社）			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：教育方法論		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の内容・方法に関する科目		・教育方法論	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	
木村 祐介	[実 務 経 験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
福田 翔平	[実 務 経 験]茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の到達目標及びテーマ 教育方法の定義、意義、守備範囲の概念についての基本的知識を習得し、教育目標、教育内容、評価との関係性についての理解を深めるとともに、教育（保育）現場における様々な課題を解決する教育（保育）方法とその活用についての理解を深め、保育者として必要な資質を培う。			
授業の概要 教育方法とは何か。その定義と意義、守備範囲についての知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変遷を概観することをとおして、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察する。			
授業計画 1. 教育方法の定義・意義と守備範囲 2. 教育方法の歴史的展開 ①西欧の教育方法 3. 〃 ②近・現代の教育方法 4. 〃 ③日本の教育方法 5. 教育技術の革新と情報機器の活用 6. 教材・教具の理解と活用 7. 特色ある授業実践 8. 教育現場における授業技術 9. 授業分析と授業評価 10. 授業展開の構想 11. 幼児の理解と幼児教育(保育)の方法（生徒指導との関係も踏まえて） 12. 近代以降の幼児教育（保育）方法 13. 幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 14. 幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容 15. 教育方法の課題と展望			
テキスト 「教育方法論」 稲田達也・大塚貴之・肥後耕生・原田敬文・芦田哲／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「小学校学習指導要領（解説書含む）」 「幼児学用語集」 小田豊・他／監修（北大路書房）			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：介護基礎Ⅰ		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
介護職員初任者研修指定科目		・職務の理解 ・老化の理解 ・障害の理解 ・介護の基本 ・認知症の理解	
栗山 智子	[実 務 経 験]社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活相談員 [研究テーマ]社会福祉・福祉マネジメント・発達心理学・介護分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
島田 麻実	[実 務 経 験]介護福祉士・看護師		
平山 麻理子	[実 務 経 験]管理栄養士		
荻根 文江	[実 務 経 験]看護師		
太田 裕子	[実 務 経 験]特別支援学校教諭・日本語教師 [研究テーマ]社会的養護・社会福祉・障害児保育・教育・学校教育・国語科分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 超高齢社会の日本において、介護を必要とする高齢者や、障がい者のニーズが多様化している。その中で、介護ニーズに、適切に対応できる知識・技能をもった者を養成することを目的とする。この科目は、介護職員初任者研修の取得を目指し、職業倫理、福祉サービスの基本的理解、介護におけるリスクマネジメントについて学習する。			
授業の概要 職務の理解を経て、利用者の尊厳のある暮らしを支えるための基本的視点を学ぶ。また、施設サービスや居宅サービスの特徴と役割や、介護保険制度、成年後見制度等、高齢者に関する様々な制度と法令についても理解を深めていく。グループワークやロールプレイングも積極的に取り入れ、問題解決学習がなされるようにする。			
授業計画 1. 職務の理解 多様なサービスの理解 2. 介護の基本 介護職の役割、専門性と多職種との連携 3. 介護職の職業倫理 4. 介護における安全の確保とリスクマネジメント 5. 介護食の安全 6. 老化の理解 ①老化に伴うこころとからだの変化と日常 7. " ②高齢者と健康 8. " ③老化の理解 9. " ④医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 10. 認知症の理解 ①認知症を取り巻く状況 11. " ②認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 12. " ③家族への支援 13. 障害の理解 ①障害の基礎的理解 14. " ②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 15. " ③家族の心理、かかわり支援の理解、家族への支援			
テキスト 「介護職員初任者研修テキスト」田中由紀子・他／著（ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等 必要に応じて資料を配付する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：介護技術Ⅰ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：30H
介護職員初任者研修指定科目		・こころとからだのしくみと生活支援技術	
栗山 智子	[実務経験]社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活相談員 [研究テーマ]社会福祉・福祉マネジメント・発達心理学・介護分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
島田 麻実	[実務経験]介護福祉士・看護師		
平山 麻理子	[実務経験]管理栄養士		
荻根 文江	[実務経験]看護師		
太田 裕子	[実務経験]特別支援学校教諭・日本語教師 [研究テーマ]社会的養護・社会福祉・障害児保育・教育・学校教育・国語科分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解する。高齢になっても、尊厳を保持し、自立を尊重し、地域生活を支える為の介護技術を習得する。			
授業の概要 介護技術Ⅰでは、主に実技演習を通して、総合的な介護活動を行うための技術を習得する。その際、スライドや人体骨格モデルを適宜使用し、科目の理解を深めるようにする。			
授業計画 - 介護の基本的な考え方 法的根拠に基づく介護 - 生活と家事 家事と生活の理解理論に基づく介護—ICFの視点に基づく生活支援— - 快適な居住環境整備と介護 ①快適な居住環境に関する基礎知識 〃 ②家事援助に関する基礎知識と生活支援 - 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①整容に関する基礎知識 〃 ②整容の支援技術 - 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①移動・移乗に関する基礎知識 〃 ②さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法 〃 ③移動を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 〃 ④移動と社会参加の留意点と支援 〃 ⑤心身機能の低下を防ぎ、生きる意欲を引き出す支援 - 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①食事に関する基礎知識 〃 ②食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 - 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①排泄に関する基礎知識 〃 ②排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法			
テキスト 「介護職員初任者研修テキスト」田中由紀子・他／著（ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等 必要に応じて資料を配付する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育実技Ⅱ		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
保育の内容・方法に関する科目		・保育実技Ⅱ	
松田 静佳	[実務経験] 幼稚園教諭・保育士		
皆川 龍吾	[実務経験] 幼稚園教諭		
佐々木 涼	[実務経験] 幼稚園教諭 [研究テーマ] 保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
授業の到達目標及びテーマ 指導案をもとに保育が展開されることを知り、実際に模擬保育を体感する。その上で、指導案の書き方の基礎について学ぶ。また、乳幼児の発達段階を踏まえた“遊び”について理解を深め、保育者としての知識と技術を習得することを目標とする。			
授業の概要 教育実習・保育実習・施設実習に向け、保育実技の向上を目指す。 遊びの本質を理解し、各年齢のこどもとの関わり方、導入の仕方、保育の展開などについて学んでいく。さらに造形表現の技法、各年齢に合わせた遊び、壁面制作等について学ぶ。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション・教材研究・制作 ③④名札制作 2. 教材研究・制作 ①②名札制作・サツマイモ収穫 ③④コース別活動 3. 教材研究・制作 ①②名札制作 4. 教材研究・制作 ①②名札制作 5. 制作・表現遊び ①②パネルシアター制作 6. 制作・表現遊び ①②パネルシアター制作 7. 制作・表現遊び ①パネルシアター制作 ②指導案作成 8. 制作・表現遊び ①指導案作成 ②発表練習 9. 教材研究・制作 ①②自己紹介 10. 教材研究・制作 ①②自己紹介 11. 教材研究・制作 ①②自己紹介 12. 教材研究・制作 ①②壁面制作 13. 教材研究・制作 ①②壁面制作 14. 教材研究・制作 ①②壁面制作 15. 教材研究・制作 ①②壁面制作			
テキスト 「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房） 「手あそび百科～ピアノ伴奏つき～」植田光子／編著（ひかりのくに） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：音楽表現Ⅱ		授業形態：演習	単位：3単位 授業時間数：90H
保育の内容・方法に関する科目		・音楽表現Ⅱ	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
倉田 照子	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・ 児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
重藤 清美	[実務経験]ピアノ講師		
押手 美加	[実務経験]音楽教室講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
柴野 玲子	[実務経験]ピアノ講師		
関 義夫	[実務経験]ピアノ講師 [研究テーマ]音楽教育分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
佐藤 いづみ	[実務経験]幼稚園教諭		
塚田 規子	[実務経験]ピアノ講師		
入江 亜矢子	[実務経験]ピアノ講師		
授業の到達目標及びテーマ 保育内容に沿って、こどもの音楽活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成（情緒・表現・鑑賞等）を育成することをテーマに学習する。保育内容を理解し、具体的な音楽表現が展開できる技術と音楽的知識の習得を目的とする。			
授業の概要 保育者として必要な音楽の基礎知識を学び、簡単なこどもの歌の弾き歌いの実技指導を行う。ピアノと声楽の基本的な演奏技術や読譜力を養う。			
授業計画 1. オリエンテーション ピアノ実技レッスン授業としてのガイダンス 2. 3. ピアノ曲とソルフェージュの継続的練習（各自の課題に取り組む） 4. 5. 6. ピアノ曲とソルフェージュの継続的練習、弾き歌いの練習（園生活のうた） 7. 8. 9. ピアノ曲とソルフェージュの継続的練習、弾き歌いの練習（季節のうた） 10. 11. 12. ピアノ曲とソルフェージュの継続的練習、弾き歌いの練習（行事のうた） 13. ピアノ曲とソルフェージュの継続的練習、弾き歌いの練習（お互いの演奏を聴きあう） 14. 15. ピアノ曲とソルフェージュの復習			
テキスト 「こどもの指導法 音楽表現」 西野洋子・茨木金吾・國光みどり・石川ますみ・田上栄美子・菅原峰子／著（豊岡短期大学）			
参考書・参考資料等 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会／編著（音楽之友社） 「こどものうた200」小林美実／編（チャイルド社）弾き歌いプリントを授業時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、授業態度、実技試験等の結果、各々の進度に見合った評価をする。 積極的に取り組むこと。			

こども未来学科
令和 7 年度 2 学年用 前期シラバス

筑波研究学園専門学校

令和7年度 2学年 前期シラバス

目 次

こども未来学科 こども保育コース・こどもスポーツコース・こども音楽コース

【教科目名】	【授業科目名】	ページ数
保育の本質・目的に関する科目		
	こども家庭支援論	1
	特別支援教育	2
保育の対象の理解に関する科目		
	こどもの保健Ⅰ	3
	こどもの食と栄養	4
	人間関係論	5
	造形表現論	6
保育の内容・方法に関する科目		
	保育教育課程論	7
	指導法「健康」	8
	音楽表現論	9
	指導法「造形表現」	10
	指導法「言語表現」	11
	表現とこどもの運動	12
	障害児保育Ⅰ	13
	社会的養護Ⅱ	14
	介護基礎Ⅱ	15
	介護技術Ⅱ	16
	(選) 保育実技Ⅲ<こども保育コース>	17
	(選) 保育実技Ⅲ<こどもスポーツコース>	18
	(選) 保育実技Ⅲ<こども音楽コース>	19
	音楽表現Ⅲ	20
保育実習		
	保育実習指導Ⅰ (保育所)	21
学外実習		
	介護実習	22

授業科目名：こども家庭支援論		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の本質・目的に関する科目・子ども家庭支援論			
森山 睦美		[実務経験]保育士・幼稚園教諭 [研究テーマ]乳幼児保育分野	
授業の到達目標及びテーマ こども家庭支援の意義とその役割について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。多様な子育て家庭のニーズの把握と支援体制を理解する。また、特別なニーズへの対応と支援における関係機関等の連携など多様な支援展開について理解する。			
授業の概要 子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保育の専門性を活かしたこども家庭支援の現状と課題について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭への支援方策として関係機関の連携等、各ニーズの特性を捉えながら学習を進める。			
授業計画 1. 家族・家庭・世帯とは 2. 家族と家庭の形態と機能 3. ライフステージ 4. 社会環境の変化と現代の家庭 5. 現代の家庭と子育てをめぐる問題 6. 要保護家庭の問題 7. 子育て家庭を支援する法・制度 8. 子育て家庭を支援する社会資源 9. 新たな子育て支援制度 10. 子育て家庭支援の体系 11. 保育者による家庭支援の原理 12. 保育所における子育て家庭支援 13. 地域における子育て家庭支援 14. 関係機関との連携 15. 要保護児童とその家庭に対する支援			
テキスト 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。 「＜新版＞家庭支援論 コンパクト版 保育者養成シリーズ」谷田貝公昭／監修（一藝社） 「実践 家庭支援論」松本園子・永田洋子・福川須美・堀口美智子／編（ななみ書房）			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：特別支援教育		授業形態：講義	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の本質・目的に関する科目		・特別支援教育	
教育の基礎的理解に関する科目		ホ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	
佐々木 涼	[実 務 経 験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
授業の到達目標及びテーマ			
特別な教育的ニーズを有するこどもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、特別な教育的ニーズのあるこどもの生活上および認知機能における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業の概要			
特別な教育的ニーズを持つこどもを支援するにあたって、こども自身の特性を理解するのはもちろん、こどもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の場のあり方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。			
授業計画			
1. 特別な教育的ニーズを持つ子供への教育課程	①特別な教育的ニーズとは何か		
2. //	②特別支援教育課程と学びの場		
3. 発達障害や軽度知的障害を持つ子供の特性	①発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち		
4. //	②こども一人ひとりのニーズに合わせた学び		
5. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のあるこどもの特性	①多様なこどものニーズの理解		
6. //	②多様なこどもの学びと生活		
7. 子供のニーズに合わせた支援	①教育課程における支援		
8. //	②通常学級における担任による支援 ※BYODを活用したケーススタディ		
9. 教育チームによる組織的支援	①個別の指導計画及び個別の教育支援計画		
10. //	②アセスメントに基づく計画と評価		
11. 特別支援教育コーディネーター	①特別支援教育コーディネーターの役割		
12. //	②外部教育資源との連携と協働		
13. 保護者・家庭支援と連携	①保護者・家庭をとりまく問題		
14. //	②保護者・家庭とのつながりの重要性 ※BYODを活用したディスカッション		
15. 特別な教育的ニーズを考える	母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解		
テキスト			
「特別支援教育」野口和也・渡辺隼人・須藤邦彦・渡邊孝継・大橋智・成瀬雄一・前川洋子／著 (豊岡短期大学)			
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)			
参考書・参考資料等			
必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：こどもの保健Ⅰ		授業形態：講義	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の対象の理解に関する科目 ・ 子どもの保健Ⅰ			
萩根 文江		[実務経験] 看護師	
授業の到達目標及びテーマ			
1. 小児・母子保健の意義や統計を学び、こどもの実態を理解する。			
2. こどもの成長・発達の特徴を理解し、その過程に応じた対応・支援を学ぶ。			
3. こどもの発育・発達の過程でおこる心身の疾病等について理解する。			
4. こどもの保育の環境・衛生環境等についての安全管理について必要性を理解する。			
5. こどもの成長には欠かすことができない家庭、専門機関、地域の連携について理解する。			
授業の概要			
生命の保持と情緒の安定を図る保育における小児の健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。具体的な内容として、こどもの身体発育・生理機能・運動機能並びに精神機能の発達について理解を深める。			
授業計画			
1. 小児保健の意義・小児の健康指標について			
2. 小児の発育について：身体発育と計測方法			
3. 身体発育の評価と問題点：こどもの肥満・生活習慣病			
4. 小児の生理機能 ①中枢神経、呼吸、脈拍と血圧、排泄機能、水分代謝			
5. 〃 ②免疫機能、睡眠、感覚機能			
6. 小児の運動機能 ①新生時期の運動機能の特色			
7. 〃 ②乳児期特有の発達、全身運動の発達			
8. 小児の精神機能：精神機能と発達、精神発達の評価			
9. 先天異常、遺伝障害、胎児障害			
10. 家庭看護：薬と投薬、発熱、痛み			
11. 予防接種の考え方の変遷			
12. ワクチンとは			
13. 事故と安全対策 ①こどもの事故の特性、各事故に対する安全確認			
14. 〃 ②救急処置の基本対応、AEDの利用、救急体制の確立			
15. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における小児の健康政策			

授業科目名：こどもの食と栄養		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の対象の理解に関する科目		・こどもの食と栄養	
平山 麻理子	[実 務 経 験]管理栄養士 [研究テーマ]栄養・食育分野		
授業の到達目標及びテーマ			
・健康な生活の基本としての食生活の意義及び基本的知識を学ぶ。 ・こどもの発育発達にあわせた食生活とその意義実践について理解する。 ・食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解するとともに地域社会との関わりをもちながら、それを活かして活用するための力をつける。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ・特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。			
授業の概要			
食生活の意義や栄養に関する基本知識を学び、こどもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会と文化との関わりの中で理解する。さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要するこどもの食と栄養についても理解する。			
授業計画			
1. 小児栄養の重要性 2. 精神運動機能・食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養 3. エネルギー・栄養素・代謝に関する基礎知識 4. 栄養素の機能の概要 5. 食事摂取基準の意義とその活用 6. 食品の基礎知識、献立作成 7. 妊娠期の栄養と食生活 8. 授乳期・乳児期の栄養の特徴 9. 幼児期の食機能の発達と成長 10. 間食（おやつ）の意義 11. 幼児期の栄養上の問題 12. 疾病・体調不良のこどもの食と栄養 13. 生涯発達における食生活 14. 障害の種類と特徴（食生活に配慮を必要とする主な障がい） 15. 栄養教育（食育）の目的と必要性			
テキスト			
「こどもの食と栄養」久保田絹江／著（豊岡短期大学） 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「こどもの食と栄養演習」小川雄二／著（建帛社） 「日本食品成分表」 「こどもの食と栄養」堤ちはる／著（萌文書林） 「乳幼児の食育実践へのアプローチ」保育所における食育研究会／編 （児童育成協会児童給食事業部）			
学生に対する評価			
提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：人間関係論		授業形態：講義	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の対象の理解に関する科目		・人間関係論	
領域および保育内容の指導法に関する科目		イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
野口 孝之	[研究テーマ]人間科学・教育心理・保育内容「人間関係」分野		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の到達目標及びテーマ 現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。			
授業の概要 領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。			
授業計画 1. 領域「人間関係」①ねらいと内容 2. 〃②領域の相補性（保育活動の総合性とは） 3. 人間関係と取り巻く社会環境①少子高齢化 4. 〃②家族の変化 5. 〃③身近な環境の変容 6. 〃④メディアの変化 7. 人間関係をつむぐこどもの発達①規範意識と道徳性の芽生え（育ち） 8. 〃②ルール、決まり事の意味と意義 9. 人間関係をつむぐこどもの発達①自立心、協同性の芽生え（育ち） 10. 〃②自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち） 11. 人間関係とこどもの遊び①遊びの中で育つ乳児の人間関係 12. 〃②遊びの中で育つ幼児の人間関係 13. 人間関係とこどもの生活①家庭とのかかわりとこどもの発達 14. 〃②地域とのかかわりとこどもの発達 15. 今日的な人間関係の課題（多様な文化のこどもと気に留めたいこども）			
テキスト 「人間関係論」原田敬文・栗岡あけみ・丹後政俊・吉益俊文・野口和也／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：造形表現論		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の対象の理解に関する科目	・造形表現論		
領域および保育内容の指導法に関する科目	イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
富金原 光秀	[研究テーマ]造形教育分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現技法等の造形の理論をもとに手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解する。			
授業の概要 幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。			
授業計画 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現の学習 2. こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの造形活動の意義 3. こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの特徴 4. こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの指導 5. こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの援助 6. こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの評価 7. えがく活動における形態・色彩の理論 8. えがく活動における絵画技法、製作内容と材料・用具 9. つくる活動における技法と活用、つくる活動の素材（廃材） 10. つくる活動における製作内容と材料・用具 11. 造形あそびにおける各種表現技法 12. 造形あそびにおける製作内容と材料・用具 13. 実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用 14. 美術の歴史的展開の概説 15. 乳幼児造形教育の課題とまとめ			
テキスト 「造形表現論」岩田健一郎・前田豊稔・八木遼蒼・矢元政行・小山貞雄・東山明／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育教育課程論		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
保育の内容・方法に関する科目		・保育の計画と評価	
教育の基礎的理解に関する科目		へ 教育課程の維持及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	
森山 睦美		[実 務 経 験]保育士・幼稚園教諭 [研究テーマ]乳幼児保育分野	
授業の到達目標及びテーマ			
1. 保育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解する。			
2. 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に習得する。			
3. 編成・実践・点検・評価・改善の過程について、その全体像を動的にとらえ理解する。			
4. 保護者や関係機関との連携について学ぶ。			
授業の概要			
保育所における保育の計画や評価について体系的に学ぶ。カリキュラムの構成、保育内容の展開方法である指導計画について実践的に学ぶとともに保育所における保育に関する保育士、保育所の自己評価のあり方についても学ぶ。さらに幼稚園での教育課程と照らし合わせることでそれぞれの意義を明確にする。			
授業計画			
1. 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方			
2. カリキュラムの基礎理論			
3. 日本における教育課程			
4. 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方			
5. 教育課程の法、教育課程と行政			
6. 学習指導要領の変遷と特色			
7. 園生活と長期・短期の指導計画			
8. 教育・保育課程編成の実際			
9. 保育の基本と実践			
10. 記録及び省察による教育・保育の質向上			
11. 学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム			
12. 明治・大正・昭和前期・後期の保育の歴史			
13. 危機管理保育のカリキュラムの意義・必要性			
14. 幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷			
15. 教育課程をめぐる諸問題			
テキスト			
「教育課程論」肥後耕生／著（豊岡短期大学）			
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「教育課程・保育計画総論」田中亨胤・佐藤哲也／著（ミネルヴァ書房）			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：指導法「健康」		授業形態：演習 (集中)	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・保育内容演習	
領域および保育内容の指導法に関する科目		イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
中村 容一	[実 務 経 験]健康・体力づくり事業財団研究員 [研究テーマ]健康教育・保育内容「健康」分野 豊岡大学通信教育部教授・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 乳幼児期は、生涯を見据え健康な心身の基礎を作る重要な時期である。こどもの健康を守り育てるためには、実際の保育現場でこどもの発育発達をいかに捉え、いかなる内容についていかに指導し支援することが効果的かを理解する必要がある。本授業では、こどもの個々の健康状態を評価する能力を多領域から養うことを目的とする。			
授業の概要 こどもの健康の意義と身体諸機能の発達について理解し、病気の予防や事故の防止など、こどもの健康・安全に対する配慮・指導・援助についての具体的内容や方法を学び、こどもの健康教育に携わる保育者として求められる基本的態度及び能力を養う。			
授業計画 1. 領域「健康」の意味（保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領のねらいと内容の理解）、保育の意義と児童観 2. こどもの姿を「みる」「みきわめる」そして、「かかわる」ことからの「こども理解」 3. 乳幼児の心身の発育発達、幼児期の心の発達、幼児期の身体発達 4. 発達過程に応じた保育、全体計画編成の基本 5. こどものこころの健康、こころの発達とストレスのサイン 6. こどもの健康と虐待 7. 基本的生活習慣の獲得、幼児の生活スタイルの現状と問題点 8. 食育に関する指導案を作成し、幼児の健康理解を図る 9. こどもの遊びの発達と健康、幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割 10. 発達に応じた遊びの指導案作成と模擬保育の振り返りからの理解 11. 安全管理と安全教育、交通安全指導、避難訓練 12. 情報機器及び教材を活用した幼児の安全理解 13. 健康と自然環境、園外保育の活動内容 14. 園外保育の指導案作成と模擬保育による留意点の学び、視聴覚教材を利用した自然環境の理解 15. 保幼小連携と保育内容「健康」のまとめ			
テキスト 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 担当教員が指示する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：音楽表現論		授業形態：講義	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・音楽表現論	
領域および保育内容の指導法に関する科目		イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
授業の到達目標及びテーマ 感性と表現に関する領域「表現」を理解し、こどもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、こどもの音楽的感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付ける。			
授業の概要 領域「表現」における音楽表現に視点を置き、こどもが遊びや生活の中で、こどもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての感性を養う。また、こどもが表現する事の楽しさを生み出す過程を理解し、こどもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的知識を身に付ける。さらに家庭及び小学校以降の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を習得する。			
授業計画 1. 領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程、音楽表現の基礎知識 2. 音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解 3. 「自然が生み出す音」「目で見える世界に存在する音」を取り入れ、表現する過程の理解 4. イメージを表現する為の音や音階の理解 5. 日本のこどもの歌と歴史的背景の理解 6. 時代を象徴している童謡などについて、調性感やリズム感に視点を置いた分析 7. 領域「表現」と他の領域との関連を考慮した音環境の理解 8. 身体及び言葉の中のリズム、生き物に見られる拍とリズムの理解と実践 9. 保育実践における豊かな表現を引き出す援助(手法)のあり方についての理解 10. 幼児用楽器の取扱いと正しい演奏法の理解と実践 11. 部分指導案「身近な音をみつけて遊ぼう」の理解と立案 12. 身近な自然や身の周りの音を様々な組み合わせで表現する方法と実践 13. 乳幼児の音楽表現を可視化するための手法と理解 14. ポートフォリオなどを活用した保育の可視化と保育現場に応じた音楽を和音(コード)で表現する方法の理解と実践 15. 家庭と園生活における乳幼児の音楽表現活動の繋がり及び小学校に繋がる学びの理解とまとめ園行事等での器楽演奏を表現豊かなものにするための理解と実践			
テキスト 「音楽表現論」森川京子・茨木金吾／編（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：指導法「造形表現」		授業形態：演習 (集中)	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・保育内容演習	
領域および保育内容の指導法に関する科目		イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
富金原 光秀	[研究テーマ]造形教育分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 保育の内容を理解し、乳幼児を含めたこどもの造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的・技術的に学習する。			
授業の概要 乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。			
授業計画 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」の学習指導要領） 2. 造形教育の思想と指導法の推移 3. こどもの発達段階における表現の特徴 4. こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価 5. 教材研究を伴う製作Ⅰ（えがく） 6. 〃 7. 教材研究を伴う製作Ⅱ（つくる） 8. 〃 9. 教材研究を伴う製作Ⅲ（造形あそび） 10. 〃 11. 実践的な指導法（模擬保育等）の学習（えがく・つくる・造形あそび） 12. 〃 13. 〃 14. えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法） 15. えがく、つくる、造形あそびの保育活動における情報機器及び教材の活用			
テキスト 「造形表現論」岩田健一郎・前田豊稔・八木遼蒼・矢元政行・小山貞雄・東山明／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：指導法「言語表現」		授業形態：講義 (集中)	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・保育内容の理解と方法	
領域および保育内容の指導法に関する科目		イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
富倉 志保	[実 務 経 験] 豪州私立中高等学校・インターナショナルスクール日本語教師 [研究テーマ] 保育内容「言葉」・児童文化財・外国語教育分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 本授業は、乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し、乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につけることを目標とする。			
授業の概要 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。作成した児童文化財を用いての表現演習を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。また、国内外の実践保育について調査し、その取り組みについて考える。			
授業計画 1. こどもの言語表現指導法と指導案の作成 ①幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容 2. 〃 ②言語表現の指導法及び指導案の作成 3. 児童文化財による乳幼児の言語表現活動 ①言語表現活動の意義と範囲 4. 〃 ②言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法 5. 言語表現が豊かになる児童文化財の指導 ①絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点 6. 〃 ②わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点 7. 言語表現を育む児童文化財の作成とその指導 ①絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材の作成と情報機器の活用法 8. 〃 ②絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材活用の指導法 9. 〃 ③絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成 10. 〃 ④絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等による模擬保育と評価方法・振り返り 11. 〃 ⑤わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法 12. 〃 ⑥わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材活用と留意点 13. 〃 ⑦わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等のAV教材を活用した、指導案の作成と評価方法 14. 〃 ⑧わらべ歌、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の模擬保育と振り返り 15. 年間指導計画への位置づけと指導案の作成、並びに保幼小連携について			
テキスト 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「紙芝居－共感のよろこび」 まついのりこ／著（童心社） 「アプローチ児童文学」 関口安義／著（翰林書房） 「えほんのせかい こどものせかい」 松岡亮子／著（文春文庫）			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：表現とこどもの運動		授業形態：講義	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・保育内容の理解と方法	
領域および保育内容の指導法に関する科目		イ 領域に関する専門的事項 ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
皆川 龍吾	[実 務 経 験]幼稚園教諭 [研究テーマ]幼児体育教育分野		
唐澤 優江	[実 務 経 験]高等学校教諭（保健体育）・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「表現」分野		
授業の到達目標及びテーマ			
本授業では、こども達が自分の思いや考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解する。年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通してこども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよく関わっていくことができるかを、発達段階に応じて展開させることを学ぶ。また、こども達が楽しく表現運動することができる安全性についても認識を深める。			
授業の概要			
こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊びや運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。			
授業計画			
1. 社会的背景を考慮しつつ ①運動遊びのねらい			
2. " ②運動遊びの援助について（個別の支援計画等）			
3. こどもの発達と運動について ①身体・形態・機能・こころの発達発達			
4. " ②こどもと運動			
5. 運動遊びの基本的な動き ①基本運動（歩・走・跳・投・押・引・転・登）			
6. " ②運動表現の要素（調整力：身体認知・空間認識）			
7. 身体コントロール能力の向上 ①調整力中心の体づくり運動			
8. " ②音・色などの刺激に対応する運動			
9. こどもの表現運動Ⅰ ①表現運動実施の教育的意義			
10. " ②身体表現運動とは			
11. こどもの表現運動Ⅱ ①身体表現運動のねらい			
12. ②実施上の留意点			
13. 発達段階と表現運動の実践（表現運動遊びの実践）			
①年齢別発達における表現遊び（表現リズム運動、ごっこ遊び、おはじき等）			
14. " ②手遊びとリズム表現（糸まき、アルプス一万尺、げんこつ山の狸さん、むすんでひらいて、アイアイ…等）			
15. 表現運動（運動遊び）における安全指導			
①安全管理について（安全の考え方、物的管理、人的管理、用具管理等）			
テキスト			
「表現とこどもの運動」廣田邦生・泉一郎・山本清洋・中村悠希／著（豊岡短期大学）			
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：障害児保育Ⅰ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目 ・ 障害児保育			
佐々木 涼	[実 務 経 験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3. 障がい児その他の特別な配慮を要するこどもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4. 障がい児その他の特別な配慮を要するこどもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5. 障がい児その他の特別な配慮を要するこどもの保育に関する現状と課題について理解する。			
授業の概要			
保育および教育現場において障がいのあるこどもたちと接していくために必要な知識や支援の方法などについて学習する。障害児保育Ⅰでは、障がい児保育および教育を支える理念、様々な障がいについて、さらにその援助方法、環境構成について考える。			
授業計画			
1. 障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷 2. 障がいのあるこどもとの統合保育と地域社会への参加 3. 差別解消と合理的配慮 4. 身体障がい児の理解と支援 5. 知的、発達障がい児の理解と支援 6. その他の障がい児の理解と支援 7. 支援体制の構築（職員間、家族、地域社会、こども同士） 8. 障がい児のコミュニケーション 9. 障がい児と遊ぶ ①感覚遊び ※BYODを活用したグループワーク 10. 〃 ②運動遊び ※BYODを活用したグループワーク 11. 障がい児保育の健康と安全 12. 統合保育の活動 13. 支援体制づくりのために 14. 障がい児の支援計画 15. 障がい児保育の現状と課題			
テキスト			
「新・基本保育シリーズ17 障害児保育」西村重稀・水田敏郎／著（中央法規出版） 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：社会的養護Ⅱ		授業形態：講義	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目 ・社会的養護Ⅱ			
栗山 智子	[実務経験]社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活相談員 [研究テーマ]社会福祉・福祉マネジメント・発達心理・介護分野		
授業の到達目標及びテーマ			
・ こどもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する。 ・ 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 ・ 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ・ 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ・ 社会的養護におけるこども虐待の防止と家庭支援について理解する。			
授業の概要			
社会的養護に関する理解をさらに深め、乳児院や障害児施設などの社会的養護の生活特性や実際について学ぶ。			
授業計画			
1. こどもの権利擁護 2. 社会的養護におけるこどもの理解 3. 社会的養護の内容 ①日常生活支援 4. 〃 ②心理的支援 5. 〃 ③自立支援 6. 施設養護の生活特性および実際 ①乳児院等 7. 〃 ②障害児施設等 8. 家庭養護の生活特性および実際 9. アセスメントと個別支援計画の作成 10. 記録および自己評価 11. 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 12. 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 13. 社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用） 14. 社会的養護における家庭支援 15. 今後の社会的養護の課題と展望			
テキスト			
「社会的養護Ⅰ」石田易司／著（豊岡短期大学） 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価			
提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：介護基礎Ⅱ		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
介護職員初任者研修指定科目		・介護における尊厳保持・自立支援 ・介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
栗山 智子	[実 務 経 験]社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活相談員 [研究テーマ]社会福祉・福祉マネジメント・発達心理・介護分野		
倉持 みどり	[実 務 経 験]介護福祉士		
荻根 文江	[実 務 経 験]看護師		
平山 麻理子	[実 務 経 験]管理栄養士		
島田 麻実	[実 務 経 験]介護福祉士・看護師		
授業の到達目標及びテーマ 介護基礎Ⅱでは利用者の能力を最大限に生かすという自立支援の考え方に従い、総合的な介護活動を実践するための知識を身に付ける。			
授業の概要 要介護者の自立支援と重度化防止のための知識を身に付け、活用・発揮されるようにする。また介護において老化や認知症を理解することの必要性に気づき、高齢者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。			
授業計画 1. 介護における尊厳の保持・自立支援 2. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 3. 介護におけるコミュニケーション技術 4. 老化の理解 5. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ①睡眠 6. 〃 ②終末期 7. 介護過程の基礎的理解 8. 総合生活支援技術演習（移動・移乗介助等） ①移動・移乗 9. 〃 ②食事 10. 〃 ③入浴 11. 〃 ④排泄 12. 総合生活支援技術演習 ①食事介助等 13. 〃 ②入浴介助等 14. 〃 ③排泄等 15. 振り返り			
テキスト 「介護職員初任者研修テキスト」 田中由紀子 他／著（ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：介護技術Ⅱ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：30H
介護職員初任者研修指定科目		・こころとからだのしくみと生活支援技術	
栗山 智子	[実務経験]社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活相談員 [研究テーマ]社会福祉・福祉マネジメント・発達心理・介護分野		
倉持 みどり	[実務経験]介護福祉士		
荻根 文江	[実務経験]看護師		
平山 麻理子	[実務経験]管理栄養士		
島田 麻実	[実務経験]介護福祉士・看護師		
授業の到達目標及びテーマ			
介護技術Ⅱでは、主に実技演習を通して、総合的な介護活動を行うための技術を習得する。			
授業の概要			
正しい知識とアセスメント結果に基づく介護技術を習得し、利用者本位のサービスを提供できるようにする。また、尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、もてる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
授業計画			
1. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		①福祉用具の活用方法	
2. //		②応用動作	
3. //		③社会参加と支援	
4. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		①摂食・嚥下	
5. //		②福祉用具の活用方法	
6. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		①清拭	
7. //		②洗髪、手・足浴	
8. 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		①排泄用具の活用方法	
9. //		②排泄介助の実際	
10. 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		①睡眠環境	
11. //		②安眠のための支援	
12. 死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護			
13. 生活支援技術演習、介護過程の基礎的理解（演習）		①移動・移乗	
14. //		②入浴、清潔保持	
15. //		③排泄	
テキスト			
「介護職員初任者研修テキスト」田中由紀子 他／著（ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等			
プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育実技Ⅲ<こども保育コース>		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
保育の内容・方法に関する科目 ・保育実技Ⅲ			
大塚 由利子	[実 務 経 験]保育士・幼稚園教諭		
皆川 龍吾	[実 務 経 験]幼稚園教諭		
森山 睦美	[実 務 経 験]保育士・幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ 乳幼児の発達段階を踏まえた“遊び”を学び、実際の保育展開について研究をし、実践力を身に付ける。また、その時々への援助・配慮について考察し、保育者としての知識と技術・技能を身に付ける。			
授業の概要 教育実習・保育実習・施設実習に向け、保育実技の向上を目指す。指導案の作成や模擬保育を通して、こどもが安全に楽しく遊ぶための環境構成や援助方法を実践的に学ぶ。また、美しい日本の四季を感じながら、1年間の歳時記を学び、行事の中に上手に取り入れる力を養う。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション（実習に向けた教材の整理） 2. 指導計画、部分実習・責任実習について 3. 指導計画、教材研究（制作） 4. 指導計画、教材研究（制作） 5. 模擬保育、教材研究（制作） 6. 模擬保育、教材研究（制作） 7. 模擬保育振り返り、指導案 8. 指導計画、教材研究（シアター） 9. 指導計画、教材研究（シアター） 10. 模擬保育、教材研究（シアター） 11. 模擬保育、教材研究（シアター） 12. 模擬保育振り返り、指導案 13. 指導教員による運動遊び、わらべうたあそび、教材発表 14. " 15. 総括（年齢）			
テキスト 「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房） 「あそびうた大全集200」細田淳子／著（永岡書店） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および期末試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育実技Ⅲ〈こどもスポーツコース〉		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
保育の内容・方法に関する科目		・保育実技Ⅲ	
皆川 龍吾	[実務経験]幼稚園教諭		
大塚 由利子	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
森山 睦美	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ 運動遊びに特化した、こどもが楽しく安全に遊ぶための指導法の研究をし、実践力を身につける。 また、その時々への援助・配慮について考察し、保育者としての知識と技術・技能を身に付ける。			
授業の概要 指導案の作成や模擬保育を通して、こどもが安全に楽しく遊ぶための環境構成や援助方法を実践的に学ぶ。また、からだの発達だけでなく、スポーツを通じて相手を思いやる心等、心の教育、人間形成を視野に入れ、こども達を支援できる保育者としての知識と技術を養う。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション、壁面制作 2. 指導計画（年間・月案・日案）について、デイリープログラムについて 3. 部分実習（手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居等）、責任実習について 4. 発達に応じた運動遊び ①3、4、5歳児 5. 〃 ②0、1、2歳児 6. 模擬保育（集団遊び） ①素案作成 7. 〃 ②指導案作成 8. 〃 ③実践、振り返り 9. 模擬保育（制作活動） ①素案作成 10. 〃 ②指導案作成 11. 〃 ③実践、振り返り 12. 実習に向けての指導案作成と模擬保育 13. 〃 14. 〃 15. 〃			
テキスト 「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房） 「あそびうた大全集200」細田淳子／著（永岡書店） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「0～5歳児の発達に合った 楽しい運動遊び」柳澤秋孝・柳澤友希／共著（ナツメ社） プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および期末試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育実技Ⅲ<こども音楽コース>		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
保育の内容・方法に関する科目		・保育実技Ⅲ	
片岡 麻衣	[実務経験]中学校教諭・ピアノ講師・リトミック指導員		
大塚 由利子	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
皆川 龍吾	[実務経験]幼稚園教諭		
森山 睦美	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ			
音楽遊びに特化した、こどもが楽しく表現しながら遊ぶための指導法を研究し、実践力を身に付ける。また、その時々への援助・配慮について考察し、保育者としての知識と技術・技能を身に付ける。さらに、リトミック教育では、こどもたちが音楽に身体全体で反応しリズム感や音感を培い、音楽を通じて自己表現することを学び、感受性豊かな情操を育むための指導方法について学ぶ。			
授業の概要			
教育実習・保育実習・施設実習に向け、保育実技の向上を目指す。指導案の作成や模擬保育を通して、こどもが安全に楽しく遊ぶための環境構成や援助方法を実践的に学ぶ。音のニュアンスを感じ取り身体を使って表現したり、リズム活動やソルフェージュの指導法を学んだりしながら、自身の音楽力を高める。さらに、演奏をアレンジする等、リトミック指導に必要な鍵盤楽器の知識・理論を学ぶ。年齢ごとのこどもの発達に応じた教育内容や指導法を学び、幼稚園・保育園のためのリトミック指導者資格2級取得を目指す。			
授業計画			
1. リズム①			

授業科目名：音楽表現Ⅲ		授業形態：演習	単位：3単位 授業時間数：90H
保育の内容・方法に関する科目		・音楽表現Ⅲ	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
倉田 照子	[実務経験]小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・児童合唱団主宰 [研究テーマ]教育・保育内容「言葉」・児童文化財分野		
重藤 清美	[実務経験]ピアノ講師		
押手 美加	[実務経験]音楽教室講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
柴野 玲子	[実務経験]ピアノ・エレクトーン講師		
塚田 規子	[実務経験]ピアノ講師		
入江 亜矢子	[実務経験]ピアノ講師		
佐藤 いづみ	[実務経験]幼稚園教諭		
関 義夫	[実務経験]ピアノ講師 [研究テーマ]音楽教育分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
片岡 麻衣	[実務経験]中学校教諭・ピアノ講師・リトミック指導員		
授業の到達目標及びテーマ 保育内容に沿って、こどもの音楽活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成（情緒・表現・鑑賞等）を育成することをテーマに学習する。1年間で身につけてきたことを基盤として、現場での即戦力となる弾き歌いのレパートリーを各自のレベルに応じて広げ、同時に現場での多様なニーズに対応できるように、実践的で応用性のある音楽能力を養うことを到達目標とする。			
授業の概要 個別指導により、表現豊かに演奏する能力を高め、音楽を楽しむ意欲を育成する。また、教育実習・保育実習に向け、応用性のある音楽的能力を養う。			
授業計画 1. 弾き歌い実践（実習を見据えて園生活、季節のうた等をレベルに合わせて選曲） 2. 弾き歌いの実践とピアノ曲、ソルフェージュの継続的練習（基礎演習Ⅱ、実践演習、各自の課題に取り組む） 3～5. 弾き歌いの実践とピアノ曲、ソルフェージュの継続的練習 6. 弾き歌いの実践（お互いの演奏を聴きあう） 7～10. 弾き歌いの実践とピアノ曲、ソルフェージュの継続的練習 11～14. 弾き歌いとピアノ曲、ソルフェージュの復習 15. 弾き歌いとピアノ曲、ソルフェージュの復習（お互いの演奏を聴きあう）			
テキスト こどもの指導法「音楽表現」西野洋子 茂木金吾 國光みどり 石川ますみ 田上栄美子 菅原峰子／編（豊岡短期大学）			
参考書・参考資料等 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会／編著（音楽之友社） 「こどものうた200」小林美実／著（チャイルド本社）弾き歌いプリントを授業時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育実習指導Ⅰ（保育所）		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：30H
保育実習		・保育実習指導Ⅰ	
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
森山 睦美	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ			
・保育実習の意義・目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。			
授業の概要			
実習の意義を理解し、学校での今迄の学びを使いながら、どのようにこどもを支援していくかを演習として考える。実習の流れと実習上の留意点をテキスト中心に学び、自分の実習課題を立ててみる。（演習）保育指導案の立て方、実習簿の書き方を学ぶ。事後指導では、実習を振り返り自己評価を行い新たな課題や学習目標を設定する。			
実習内容			
1. 保育実習の意義 ①実習の目的 2. 〃 ②実習の概要 3. 実習の内容と課題の明確化：実習の内容、実習の課題 4. 実習に際しての留意事項 ①実習生としての心構え 5. 〃 ②こどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務 6. 実習の計画と記録 7. 日誌の書き方 ①こどもの活動 8. 〃 ②環境構成 9. 〃 ③保育者の援助・留意点 10. 指導案の書き方 ①保育の準備・環境構成 11. 〃 ②予想されるこどもの活動 12. 〃 ③保育者（実習生）の援助 13. お礼状の書き方 14. 事後指導における実習の総括と自己評価 15. 事後指導における課題の明確化			
テキスト			
「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」小櫃智子他／著（わかば社） 「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子他／著（わかば社）			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：介護実習		授業形態：実習	単位：1 単位 授業時間数：40H
介護職員初任者研修指定科目		・介護技術	
栗山 智子	[実 務 経 験]社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活相談員 [研究テーマ]社会福祉・福祉マネジメント・発達心理・介護分野		
授業の到達目標及びテーマ			
1．利用者を受容し、共感する姿勢を実践から養う。 2．個人差や生活環境に伴う利用者のニーズの把握と理解を深める。 3．個別支援計画の作成と計画の実践について学ぶ。 4．家族への支援と対応について学ぶ。 5．多様な専門職との連携について理解する。 6．地域社会との連携について理解する。			
授業の概要			
前半は、観察や活動への参加を通して、介護施設の機能や役割の理解、施設での利用者の生活や一日の流れについて学ぶ。後半は、生活支援計画の理解と実践、職員間や地域との連携の理解し専門職としての職務内容と職業倫理について学ぶ。			
実習内容			
1．職務の理解 ①施設における多様なサービスと地域活動、一日の流れについて理解する。 ②介護職の仕事内容や働く現場について理解する。 2．生活と家事、快適な居住環境整備と介護 ①家事援助の機能と基本原則について理解する。 ②利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備について理解し、介助方法について学ぶ。 3．整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ①装うことや整容の意義について理解し、根拠に基づく介助の基本技術を学ぶ。 4．移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ①体位交換、移動、移乗、車椅子や杖などの基本的な使用方法に基づいた介助の基本技術について学ぶ。 5．食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ①食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法、食事に関するからだのしくみを理解するとともに介助の基本技術について学ぶ。 6．入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ①入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備、用具、入浴に関するからだのしくみを理解するとともに、介助の基本技術について学ぶ。 7．排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ①排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行う。 8．実習の振り返り ①介護施設において、介護全般を自ら体験・実践し、専門職として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の実態に触れ、ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、利用者を支援するために必要とされる能力を養う。			
テキスト			
「介護職員初任者研修テキスト」田中 由紀子／著（ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等			
プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価			
介護職員初任者研修の実施要項の「介護職員初任者研修における目標、評価の指針」に則り、学生が学んだ知識・技術等の習熟度について評価する。			



Tsukuba Institute of Science & Technology

こども未来学科
令和7年度2学年用 後期シラバス

筑波研究学園専門学校

令和7年度 2学年 後期シラバス

目 次

こども未来学科 こども保育コース・こどもスポーツコース・こども音楽コース

【教科目名】	【授業科目名】	ページ数
保育の本質・目的に関する科目		
	言葉とこどもの文化	1
保育の対象の理解に関する科目		
	こどもの保健Ⅱ	2
保育の内容・方法に関する科目		
	指導法「環境」	3
	乳幼児保育Ⅱ	4
	障害児保育Ⅱ	5
	(選) リトミック指導法	6
	〈こども保育コース〉	
	(選) リトミック指導法	7
	〈こども音楽コース〉	
	(選) 幼児体育指導法	8
	〈こどもスポーツコース〉	
	(選) 保育実技Ⅳ〈こども保育コース〉	9
	(選) 保育実技Ⅳ	10
	〈こどもスポーツコース〉	
	(選) 保育実技Ⅳ 〈こども音楽コース〉	11
	音楽表現Ⅳ	12
	総合演習（文化・音楽・スポーツ）	13
保育実習		
	保育実習Ⅰ（保育所）	14
	保育実習Ⅰ（施設）	15
	保育実習指導Ⅰ（施設）	16
学外実習		
	教育実習事前事後指導Ⅰ	17
	(選) 教育実習Ⅰ	18
	(選) 幼児教育研究Ⅰ	19

授業科目名：言葉とこどもの文化		授業形態：講義	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の対象の理解に関する科目		・言葉とこどもの文化	
領域及び保育内容の指導法に関する科目		・領域に関する専門的事項 ・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
松田 静佳	[実 務 経 験]保育士・幼稚園教諭・一般企業における新人研修		
授業の到達目標及びテーマ 本授業は、保育所保育指針や幼稚園教育要領が求める領域「言葉」を踏まえた上で、児童文化財がこどものことばの習得にどのように役立つのかを理解し、保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし等の児童文化財を利用しての言葉の理解を目的とする。			
授業の概要 言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、こどもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究を通して、その利用の仕方について理解する。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深める。			
授業計画 1. ことばの機能と言葉の発達 人間とことば、幼児とことば 2. 〃 乳幼児期のことばの発達と保育者の役割 3. 領域〈言葉〉のねらい及び内容 保育所保育指針 4. 〃 幼稚園教育要領 5. ことばを育てる児童文化財 ①児童文化財とは 6. 〃 ②絵本 7. 〃 ③紙芝居 8. 〃 ④おはなし 9. 〃 ⑤ペープサート 10. 〃 ⑥シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど） 11. 〃 ⑦ことばに対する感覚を養う児童文化財 12. 〃 ⑧わらべうたあそび、ことばあそび 13. ことばを育む教材 ①ことばを育む教材の範囲 14. 〃 ②ことばを育む教材研究 15. 保幼小連携について			
テキスト 「言葉とこどもの文化」 天野佐代子・近藤章・城重幸・中川理恵子・長谷雄一・平林一利・古川紘一郎・松永明子／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） 参考書・参考資料等 必要に応じ、プリント配布する。 「絵本の事典」中川素子・他／編集（朝倉書店） 「子どもと言葉（改訂版）」岡田明／監修（萌文書林） 「ことばと表現力を育む児童文化（第2版）」川勝泰介・他／編著（萌文書林） 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議（座長 無藤隆） 「昔ばなし大学ハンドブック」小澤俊夫／著（読者サポート）			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：こどもの保健Ⅱ		授業形態：講義	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の対象の理解に関する科目		・子どもの保健	
荻根 文江	[実 務 経 験]看護師		
授業の到達目標及びテーマ			
1. こどもの病気を早期発見するための観察力を養い、具体的な対応を学び、実践能力を高める。 2. 事故や感染等の健康安全管理について理解する。 3. 予防対策の取り組みについて、他職種間との連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
授業の概要			
集団においての健全な成長・発育を促すために必要な環境・衛生管理・安全管理について理解する。 また、感染症を中心とした疾病について、その予防法および適切な対応について理解を深める。			
授業計画			
1. こどもの生活習慣と病気との関係：食生活、歯の健康管理の必要性 2. 日常よくみる症状について：嘔吐・腹痛・頭痛・便秘・下痢・不機嫌等 3. 日常よくみる病気の対応について：感染症（食中毒含む） 4. 体調不良のこどもの対応について：なんとなく元気がない・不機嫌等 5. アレルギーのあるこどもへの対応について：食物アレルギー・アトピー体質・喘息等 6. 小児感染症の予防と対策 ①基礎知識・法律についての理解 ②日々の手洗いの重要性、環境整備と消毒 7. 児童虐待が疑われるこどもへの対応 8. アナフィラキシーの既往のあるこどもへの対応（補助薬剤の取り扱い等） 9. 事故防止・災害への備えと組織的な取り組み 10. 救急処置・救急蘇生法の理解 11. 感染症発生時の対応：施設における安全対策の机上シミュレーション等 12. 施設における、災害時の危機管理対策 13. 病後児保育の対応について（薬の取り扱いについて） 14. 事故防止と安全教育：家族と連携施設との協働 15. 「校内演習」と振り返り			
テキスト			
「こどもの保健」宮津澄江／著（豊岡短期大学） 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「よくわかる・子どもの保健（第3版）」竹内義博・他／著（ミネルヴァ書房）			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：指導法「環境」		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・保育内容演習	
領域及び保育内容の指導法に関する科目		・領域に関する専門的事項 ・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
湯浅 阿貴子	[実 務 経 験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・保育内容「人間関係」・発達障害児・発達心理分野		
授業の到達目標及びテーマ 保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。			
授業の概要 こどもは、様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本科目では、環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を挙げて学習していく。 また、グループ学習を含め、視聴覚機材を使用し、より深く学んでいく。			
授業計画 1. 環境とは （1）環境という言葉、環境の定義 2. " （2）環境を通して行う保育の意味 3. 領域「環境」の位置づけ （1）ねらいと内容 4. " （2）指導上の留意点と指導計画、評価の考え方 5. 身近な環境の構成（指導案の構成と作成） 			

授業科目名：乳幼児保育Ⅱ		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・乳児保育Ⅱ	
大塚 由利子	[実 務 経 験]幼稚園教諭・保育士 [研究テーマ]乳幼児保育分野		
授業の到達目標及びテーマ			
・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的考え方について理解する。 ・養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に学ぶ。 ・乳児保育における配慮の実践について具体的に学ぶ。 ・上記を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に学ぶ。 ※乳児保育とは3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
授業の概要			
乳児・低年齢幼児の保育の理念・課題を理解し、この時期のこどもの保育の内容と方法、留意点を学習して実践の能力を獲得していく。			
授業計画			
1. 乳児保育の基本 ①保育士等との関係の重要性			
2. 〃 ②個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり			
3. 〃 ③子どもの主体性の尊重と自己の育ち			
4. 〃 ④子どもの体験と学びの芽生え			
5. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践			
①子どもの1日の生活の流れと保育の環境			
6. 〃 ②子どもの生活や遊びを支える環境の構成			
7. 〃 ③3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践			
8. 〃 ④3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践			
9. 〃 ⑤子ども同士の関わりとその援助の実践			
10. 乳児保育における配慮の実践 ①子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮			
11. 〃 ②集団での生活における配慮			
12. 〃 ③子どもの死亡および事故の現状と課題			
13. 〃 ④環境の変化や移行に対する配慮			
14. 乳児保育における計画の実践 ①長期的な指導計画と短期的な指導計画			
15. 〃 ②個別的な指導計画と集団の指導計画			
テキスト			
「乳幼児保育Ⅰ」國光みどり／編著（豊岡短期大学）			
「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
随時、提示する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：障害児保育Ⅱ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・障害児保育	
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3. 障がい児その他の特別な配慮を要するこどもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4. 障がい児その他の特別な配慮を要するこどもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5. 障がい児その他の特別な配慮を要するこどもの保育に関する現状と課題について理解する。			
授業の概要			
障害児保育Ⅱでは、障がいのあるこどもの個別支援方法、保護者や家族に対する理解と支援方法、関係機関との連携、障がいのあるこどもの保育および教育を支える理念、様々な障がいについて、更にその援助法、環境構成について考察する。			
授業計画			
1. 知的障がい児のコミュニケーション 2. 発達障がい児のコミュニケーション 3. 身体障がい児のコミュニケーション 4. 個々の発達を促す生活や遊びの環境 5. 遊びを通した障がい児との関わり 6. こども同士の関わりと育ち合い（teams ホワイトボードを用いたケーススタディ） 7. 障がい児保育の健康と安全 8. 職員間の連携・協働 9. 自治体や関係機関（保育所、児童発達支援センター等）の連携・協働 10. 統合保育の活動 11. 保護者や家族に対する理解と支援 12. 保護者間の交流や支え合いの意義とその支援 13. 指導計画及び個別の支援計画の作成 14. 保健・医療における現状と課題 15. 福祉・教育における現状と課題			
テキスト			
「新基本保育シリーズ⑩障害児保育」西村重稀・水田敏郎／編（中央法規出版） 「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
特になし。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：（選）リトミック指導法（基礎） ＜こども保育コース＞		授業形態：演習	単位：2 単位 授業時間数：30H
保育の内容・方法に関する科目		・リトミック指導法（基礎）	
片岡 麻衣	[実 務 経 験]中学校教諭・ピアノ講師・リトミック指導員		
授業の到達目標及びテーマ リトミック教育では、音楽やその他の刺激をこどもたちに与え、こどもたちはその刺激を受け止め、心を感じた事柄を身体的に創造表現していく方法を基本とする。その指導方法について学ぶ。			
授業の概要 こどもの年齢ごとの発達に応じた実践的指導法を学び、効果的な指導力を身に付ける。音のニュアンスを感じ取り身体を使って表現したり、リズム活動やソルフェージュの指導法を学んだりしながら、自身の音楽力を高める。また、演奏をアレンジするなど、リトミック指導に必要な鍵盤楽器の知識・理論を学ぶ。そして、規定のプログラムを修了した上で、こどものためのリトミック指導者の資格認定試験に臨む。年齢ごとのこどもたちの発達に応じた教育内容や指導法を学び、リトミック指導者としての音楽力を身に付ける。自らがリズムを感じて楽しんで表現する。			
授業計画 1. リズム 1（開講式、リトミックについて、楽しいリトミックの経験） 2. リズム 2（強弱・テンポ・空間・アクセント、基礎リズム 1） 3. ティーチング 1（3 歳児指導法—1 学期） 4. リズムの演奏法 1（リズムの演奏法 3 歳児指導法—1 学期） 5. リズム 3（楽しいリトミックの経験、基礎リズム 2） 6. ティーチング 2（3 歳児指導法—2 学期） 7. リズムの演奏法 2（リズムの演奏法 3 歳児指導法—2 学期） 8. リズム 4（楽しいリトミックの経験、基礎リズム 3） 9. ティーチング 3（3 歳児指導法—3 学期） 10. リズムの演奏法 3（リズムの演奏法 3 歳児指導法—3 学期） 11. リズム 5（楽しいリトミックの経験、基礎リズム 4） 12. ティーチング 4（3 歳児指導法総括—1～3 学期） 13. リズム 6（リズムカノン、リズムフレーズ） 14. リズムの演奏法 4（リズムの演奏法 3 歳児指導法—1～3 学期） 15. 理論（リトミックの理論とダルクローズについて）			
テキスト 「幼稚園・保育園のためのリトミック 3 歳児用」 岩崎光弘・馬淵明彦他／編著 （特定非営利活動法人リトミック研究センター）			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：（選）リトミック指導法（応用） ＜こども音楽コース＞		授業形態：演習	単位：2 単位 授業時間数：30H
保育の内容・方法に関する科目		・リトミック指導法（応用）	
片岡 麻衣	[実 務 経 験]中学校教諭・ピアノ講師・リトミック指導員		
授業の到達目標及びテーマ リトミック教育では、音楽やその他の刺激をこどもたちに与え、こどもたちはその刺激を受け止め、心を感じた事柄を身体的に創造表現していく方法を基本とする。その指導方法について学ぶ。			
授業の概要 こどもの年齢ごとの発達に応じた実践的指導法を学び、効果的な指導力を身に付ける。音のニュアンスを感じ取り身体を使って表現したり、リズム活動やソルフェージュの指導法を学んだりしながら、自身の音楽力を高める。また、演奏をアレンジするなど、リトミック指導に必要な鍵盤楽器の知識・理論を学ぶ。そして、規定のプログラムを修了した上で、こどものためのリトミック指導者の資格認定試験に臨む。年齢ごとのこどもたちの発達に応じた教育内容や指導法を学び、リトミック指導者としての音楽力を身に付ける。自らがリズムを感じて楽しんで表現する。			
授業計画 1. ティーチング①（4歳児指導法―1学期） 2. ティーチング②（4歳児指導法―2学期） 3. リズム①（楽しいリトミックの経験、リズムカノン 3拍子 リズムフレーズ 2・3拍子） 4. リズムの演奏法①（リズムの演奏法 4歳児指導法―1～2学期） 5. ティーチング③（4歳児指導法―3学期） 6. ティーチング④（5歳児指導法―1学期） 7. リズム②（楽しいリトミックの経験、リズムカノン 3・4拍子 複リズム Ostinato） 8. リズムの演奏法②（リズムの演奏法 4歳児指導法―3学期 5歳児指導法―1学期） 9. ティーチング⑤（5歳児指導法―2学期） 10. ティーチング⑥（5歳児指導法―3学期） 11. リズム③（楽しいリトミックの経験、リズムカノン 3・4拍子 複リズム Ostinato） 12. ティーチング⑦（4・5歳児指導法総括） 13. リズム④（楽しいリトミックの経験、リズムカノン 3・4拍子 複リズム Ostinato） 14. リズムの演奏法③（リズムの演奏法 5歳児指導法―2～3学期） 15. 理論（リトミックの理論とダルクローズについて）			
テキスト 「幼稚園・保育園のためのリトミック 4歳児用」岩崎光弘・馬淵明彦他／編著 （特定非営利活動法人リトミック研究センター） 「幼稚園・保育園のためのリトミック 5歳児用」岩崎光弘・馬淵明彦他／編著 （特定非営利活動法人リトミック研究センター）			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：(選) 幼児体育指導法		授業形態：演習	単位：2 単位 授業時間数：30H
＜こどもスポーツコース＞			
保育の内容・方法に関する科目		・ 幼児体育指導法	
皆川 龍吾	[実務経験]幼稚園教諭・子ども身体運動発達指導士・幼児体育指導者		
授業の到達目標及びテーマ 「子ども身体運動発達指導士（Instructor of Physical Movement Development for Children）」として、状況に応じたこどもへの適切な運動指導法を習得する。こどもの運動感覚づくり、基礎的体力づくり及びコミュニケーション能力向上に資する運動指導者を目指す。			
授業の概要 状況に応じたこどもへの適切な運動指導法を習得するために、基盤となる運動発達や指導に関する知識を養う。また、器械や器具を用いた演習を行い、実践的な指導力を培う。			
授業計画 1. こどもの身体運動発達と運動指導に関する知識① 2. 〃 ② 3. こどもの身体発達特性に関する知識 4. こどもの新しい運動指導の方向と内容に関する知識 5. こどもにやさしい動きの指導方法に関する知識 6. こどもと食育に関する知識 7. 運動遊びカリキュラムに関する作成・工夫と実際① 8. 〃 ② 9. 表現リズム・運動遊びに関する実践① 10. 〃 ② 11. 器械・器具における運動感覚づくりに関する実践① 12. 〃 ② 13. 用具を使つての運動感覚づくりに関する実践① 14. 〃 ② 15. こどもの事故防止に関する実際			
テキスト 「子どものための楽しい体づくり運動」森高夫／著（アイオーエ）			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育実技Ⅳ<こども保育コース>		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：30H
保育の内容・方法に関する科目		・保育実技Ⅳ	
森山 睦美	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
松田 静佳	[実務経験]保育士・幼稚園教諭・一般企業における新人研修		
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ			
こども達の気持ちや行動に寄り添い、成長過程に応じた最善の援助を学ぶことで、一人ひとりの個性や人間性を育む力を身につける。また、美しい日本の四季を感じながら、一年間の歳時記を学び、行事の中に上手に取り入れる力を養う。集団遊び・伝承遊びの実践、年齢に応じた指導計画の作成と模擬保育を行い、実践力を身につける。			
授業の概要			
教育実習・保育実習・施設実習に向け、保育実技の向上を目指す。こどもの成長過程を理解した環境を構成し、さらにこどもの感性や言葉を大切に、気持ちや行動に寄り添った援助を考える。教材研究、指導案作成、模擬保育実践を通して、保育実技の向上を目指す。			
授業計画			
1. 保育実技オリエンテーション (エプロンシアターについて・紙芝居の読み方について)			
3. 模擬保育（0・1・2歳児）絵本の読み聞かせ			
4. 指導案・実演練習（3・4・5歳児）絵本の読み聞かせ			
5. 模擬保育（3・4・5歳児）絵本の読み聞かせ			
6. 指導案・実演練習（0・1・2歳児）紙芝居の読み聞かせ			
7. 模擬保育（0・1・2歳児）紙芝居の読み聞かせ			
8. 指導案・実演練習（3・4・5歳児）紙芝居の読み聞かせ			
9. 模擬保育（3・4・5歳児）紙芝居の読み聞かせ			
10. エプロンシアター制作			
11. エプロンシアター制作			
12. エプロンシアター制作			
13. エプロンシアター制作・指導案・実演研究			
14. エプロンシアター制作・指導案・実演研究			
15. エプロンシアター発表			
テキスト			
「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房）			
「あそびうた大全集200」細田淳子／著（永岡書店）			
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育実技Ⅳ＜こどもスポーツコース＞		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：30H
保育の内容・方法に関する科目		・保育実技Ⅳ	
皆川　龍吾	[実務経験]幼稚園教諭・子ども身体運動発達指導士・幼児体育指導者		
授業の到達目標及びテーマ こども達の気持ちや行動に寄り添い、成長過程に応じた最善の援助を学ぶことで、一人ひとりの個性や人間性を育む力を身につける。また、美しい日本の四季を感じながら、一年間の歳時記を学び、行事の中に上手く取り入れる力を養う。集団遊び・伝承遊びの実践、年齢に応じた指導計画の作成と模擬保育を行い、実践力を身につける。			
授業の概要 教育実習・保育実習・施設実習に向け、保育実技の向上を目指す。こどもの成長過程を理解した環境を構成し、さらにこどもの感性や言葉を大切にし、気持ちや行動に寄り添った援助を考える。身体表現や健康を考えた教材研究、指導案作成、模擬保育実践を通して、保育実技の向上を目指す。			
授業計画 １．保育実技オリエンテーション (エプロンシアターについて・紙芝居の読み方について) ２．指導案・実演練習（０・１・２歳児）ゲーム遊び ３．模擬保育（０・１・２歳児）ゲーム遊び ４．指導案・実演練習（３・４・５歳児）ゲーム遊び ５．模擬保育（３・４・５歳児）ゲーム遊び ６．指導案・実演練習（０・１・２歳児）作って遊ぼう ７．模擬保育（０・１・２歳児）作って遊ぼう ８．指導案・実演練習（３・４・５歳児）作って遊ぼう ９．模擬保育（３・４・５歳児）作って遊ぼう 10．指導案・実演練習（０・１・２歳児）身体を使った表現遊び 11．模擬保育（０・１・２歳児）身体を使った表現遊び 12．指導案・実演練習（３・４・５歳児）身体を使った表現遊び 13．模擬保育（３・４・５歳児）身体を使った表現遊び 14．エプロンシアター実演研究・指導案 15．エプロンシアター実演研究・指導案 エプロンシアター制作:指導案作成 ↓ 12月中旬			
テキスト 「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房） 「あそびうた大全集200」細田淳子／著（永岡書店） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「０～５歳児の発達に合った　楽しい運動遊び」（ナツメ社） プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育実技Ⅳ<こども音楽コース>		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：30H
保育の内容・方法に関する科目		・保育実技Ⅳ	
大塚 由利子	[実 務 経 験]幼稚園教諭・保育士 [研究テーマ]乳幼児保育分野		
授業の到達目標及びテーマ こども達の気持ちや行動に寄り添い、成長過程に応じた最善の援助を学ぶことで、一人ひとりの個性や人間性を育む力を身につける。また、美しい日本の四季を感じながら、一年間の歳時記を学び、行事の中に上手に取り入れる力を養う。集団遊び・伝承遊びの実践、年齢に応じた指導計画の作成と模擬保育を行い、実践力を身につける。			
授業の概要 教育実習・保育実習・施設実習に向け、保育実技の向上を目指す。こどもの成長過程を理解した環境を構成し、さらにこどもの感性や言葉を大切に、気持ちや行動に寄り添った援助を考える。音楽に親しみながら豊かな感性を育むための教材研究、指導案作成、模擬保育実践を行い、保育実技の向上を目指す。			
授業計画 1. 保育実技オリエンテーション、模擬保育に向けて 2. リトミック模擬保育の計画、指導案 3. リトミック模擬保育指導案 4. リトミック模擬保育実践演習 5. リトミック模擬保育実践演習 6. リトミック模擬保育実践演習 7. リトミック模擬保育実践演習 8. リトミック模擬保育実践の振り返り 9. エプロンシアター 10. エプロンシアター 11. エプロンシアター 12. エプロンシアター 13. エプロンシアター、指導案 14. エプロンシアター練習 15. エプロンシアター試験			
テキスト 「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房） 「あそびうた大全集200」細田淳子／著（永岡書店） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：音楽表現Ⅳ		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：45H
保育の内容・方法に関する科目		・音楽表現Ⅳ	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
倉田 照子	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
重藤 清美	[実務経験]ピアノ講師		
柴野 玲子	[実務経験]ピアノ講師		
関 義夫	[実務経験]ピアノ講師 [研究テーマ]音楽教育分野 姫路大学通信教育課程非常勤講師		
佐藤 いづみ	[実務経験]幼稚園教諭		
塚田 規子	[実務経験]ピアノ講師		
入江 亜矢子	[実務経験]ピアノ講師		
授業の到達目標及びテーマ 保育内容に沿って、こどもの音楽活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成（情緒・表現・鑑賞等）を育成することをテーマに学習する。1年間で身につけてきたことを基盤として、現場での即戦力となる弾き歌いのレパートリーを各自のレベルに応じて広げ、同時に現場での多様なニーズに対応できるように、実践的で応用性のある音楽能力を養うことを到達目標とする。			
授業の概要 個別指導により、表現豊かに演奏する能力を高め、音楽を楽しむ意欲を育成する。また、教育実習・保育実習に向け、応用性のある音楽的能力を養う。			
授業計画 1. 弾き歌い実践（実習を見据えて園生活、季節のうた等をレベルに合わせて選曲） 2. 弾き歌いの実践とピアノ曲、ソルフェージュの継続的練習 （第2章、各自の課題に取り組む） 3. 4. 5. 弾き歌いの実践とピアノ曲、ソルフェージュの継続的練習 6. 弾き歌いの実践（お互いの演奏を聴きあう） 7. 8. 9. 10. 弾き歌いの実践とピアノ曲、ソルフェージュの継続的練習 11. 12. 13. 弾き歌いとピアノ曲、ソルフェージュの復習 14. 15. 弾き歌いとピアノ曲、ソルフェージュの復習（お互いの演奏を聴きあう）			
テキスト 「こどもの指導法 音楽表現」 西野洋子・茨木金吾・國光みどり・石川ますみ・田上栄美子・菅原峰子／編（豊岡短期大学）			
参考書・参考資料等 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会／編著（音楽之友社） 「こどものうた200」小林美実／著（チャイルド本社） 弾き歌いプリントを授業時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、授業態度、実技試験等の結果、各々の進度に見合った評価をする。 積極的に取り組むこと。			

授業科目名：総合演習（文化・音楽・スポーツ）		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・総合演習	
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
森山 睦美	[実務経験]保育士・幼稚園教諭		
授業の到達目標及びテーマ この授業は学生自身が主体的に学び、互いに学び合うことを目的としている。様々な保育活動を立案し、模擬保育を行い、互いにフィードバックをすることを通して、保育力の向上を目指す。			
授業の概要 教育実習・保育実習での責任実習における様々な保育活動に視座を置き、指導案を作成し、模擬保育を行い、課題研究をする。			
授業計画 1. オリエンテーション 2. 保育活動の指導案作成（生活の活動） 3. 〃 4. 模擬保育・フィードバック 5. 〃 6. 〃 7. 〃 8. 保育活動の指導案作成（季節の活動） 9. 〃 10. 課題研究・フィードバック 11. 〃 12. 〃 13. 〃 14. 〃 15. 課題研究における総括			
テキスト 「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房） 「あそびうた大全集200」細田淳子／著（永岡書店） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、授業態度、実技試験等の結果を総合して評価する。			

授業科目名：保育実習Ⅰ（保育所）		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：80H
保育実習		・保育実習Ⅰ	
大森 淳子	[研究テーマ]幼児教育・音楽教育・保育内容「表現」分野 豊岡短期大学教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
福田 翔平	[実務経験]茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ]ITと人間関係分野		
大塚 由利子	[実務経験]保育士・幼稚園教諭・実習生受け入れ実務		
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
森山 睦美	[実務経験]保育士・幼稚園教諭・新人研修		
授業の到達目標及びテーマ			
・保育実習の意義・目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・実習施設におけるこどもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。			
授業の概要			
実習の意義を理解し、学校での今迄の学びを使いながら、どのようにこどもを支援していくかを演習として考える。実習の流れと実習上の留意点をテキスト中心に学び、自分の実習課題を立ててみる。 (演習) 保育指導案の立て方、実習簿の書き方を学ぶ。事後指導では、実習を振り返り自己評価を行い新たな課題や学習目標を設定する。			
実習内容			
1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所におけるこどもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. こどもの理解 (1) こどもの観察とその記録による理解 (2) こどもの発達過程の理解 (3) こどもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) こどもの発達過程に応じた保育内容 (3) こどもの生活や遊びと保育環境 (4) こどもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理			
テキスト			
「保育実習指導」戸江茂博・岩田健一郎・國光みどり／著（豊岡短期大学） 「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房） 「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「幼稚園保育所実習パーフェクトガイド」小櫃智子・他／著（わかば社） 「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子・他／著（わかば社）			
学生に対する評価			
実習先からの成績評価をもとに普段の授業態度や生活態度を加味し、評価する。			

授業科目名：保育実習Ⅰ（施設）		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：80H
保育実習		・保育実習Ⅰ	
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
森山 睦美	[実務経験]保育士・幼稚園教諭・新人研修		
福田 翔平	[実務経験]茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ]ITと人間関係分野		
大塚 由利子	[実務経験]保育士・幼稚園教諭・実習生受け入れ実務		
授業の到達目標及びテーマ			
・保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ・既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ・保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。			
授業の概要			
保育所以外の児童福祉施設の養護の実践をし、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。 施設を利用する対象児・者養護内容の実際、施設のもつ全体的な養護機能などについて理解を深める。			
実習内容			
1. 施設の役割と機能 ①施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり ②施設の役割と機能			
2. 子どもの理解 ①子どもの観察とその記録 ②個々の状態に応じた援助や関わり			
3. 施設における子どもの生活と環境 ①計画に基づく活動や援助 ②子どもの心身の状態に応じた生活と対応 ③子どもの活動と環境 ④健康管理、安全対策の理解			
4. 計画と記録 ①支援計画の理解と活用 ②記録に基づく省察・自己評価			
5. 専門職としての保育士の役割と倫理 ①保育士の業務内容 ②職員間の役割分担や連携 ③保育士の役割と職業倫理			
テキスト			
「保育実習指導」戸江茂博・岩田健一郎・國光みどり／著（豊岡短期大学） 「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子他／著（わかば社）			
学生に対する評価			
実習先からの成績評価をもとに普段の授業態度や生活態度を加味し、評価する。			

授業科目名：保育実習指導Ⅰ（施設）		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：15H
保育実習		・保育実習指導Ⅰ	
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
福田 翔平	[実務経験]茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ]ITと人間関係分野		
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
森山 睦美	[実務経験]保育士・幼稚園教諭・新人研修		
大塚 由利子	[実務経験]保育士・幼稚園教諭・実習生受け入れ実務		
授業の到達目標及びテーマ			
・保育実習の意義・目的を理解する。			
・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。			
・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。			
・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。			
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。			
授業の概要			
保育所以外の児童福祉施設を利用する対象児・者と養護内容の実際、施設のもつ全体的な用語機能などについて理解を深める。実習の流れと実習上の留意点をテキスト中心に学び、自分の実習課題を組み立ててみる。保育指導案の立て方、実習簿の書き方を学ぶ。事後指導では、実習を振り返り自己評価を行い新たな課題や学習目標を設定する。			
授業計画			
1. 実習の意義（目的）			
2. 実習の意義（概要）			
3. 児童福祉施設の種類と役割			
4. 実習内容の明確化			
5. 実習課題の明確化			
6. 子どもの人権と最善の利益への考慮			
7. プライバシーの保護と守秘義務			
8. 実習生としての心構え			
9. 実習における計画と実践			
10. 実習における観察、記録			
11. 指導案作成			
12. 指導案作成および実習準備			
13. 実習の総括と自己評価			
14. 実習後の課題の明確化①			
15. 〃 ②			
テキスト			
「保育実習指導」戸江茂博・岩田健一郎・國光みどり／著（豊岡短期大学）			
「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：教育実習事前事後指導Ⅰ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：30H
教育実践に係る科目		・ 教育実習	
倉田 照子	[実務経験]小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育・教育・保育内容「言葉」・児童文化財分野 豊岡短期大学教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
森山 睦美	[実務経験]保育士・幼稚園教諭・新人研修		
授業の到達目標及びテーマ 実習に向けて、学習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能・態度等を総合的に学ぶ。			
授業の概要 教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努める。			
授業計画 1. 実習の意義と目的：①幼稚園教育の特質 ②実習の意義と目的 ③保育者としての倫理（守秘義務 職務に専念する義務 等） 2. 教育実習の流れと手続き、その内容：実習生としての心構え 3. 教育実習の流れと手続き、その内容：事前相談・打ち合わせ 4. 観察・参加・責任実習：長期指導計画・短期指導計画 5. 観察・参加・責任実習：こどもを取り巻く環境（環境構成） 6. 観察・参加・責任実習：幼児理解と保育 7. 教師の援助：保護者理解と支援 8. 教師の援助：特別な支援を要するこどもへの対応 9. 実践演習：手遊び 10. 実践演習：読み聞かせ 11. 指導案作成：指導案とは何か 12. 指導案作成：指導案作成の実際 13. 指導案作成：指導案作成の実際 14. 指導案作成：指導案作成の実際 15. 実習の総括と評価、課題の明確化：①幼児理解と学び ②保育者の活動からの学び			
テキスト 「教育実習事前・事後指導」田治米富子・堀和弘／著（豊岡短期大学） 「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房） 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：（選）教育実習Ⅰ		授業形態：実習	単位：2単位 授業時間数：80H
教育実践に係る科目		・ 教育実習	
倉田 照子	[実務経験]小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育・教育・保育内容「言葉」・児童文化財分野 豊岡短期大学教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
大塚 由利子	[実務経験]保育士・幼稚園教諭・実習生受け入れ実務 [研究テーマ]乳幼児保育分野		
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
森山 睦美	[実務経験]保育士・幼稚園教諭・新人研修		
授業の到達目標及びテーマ 幼稚園教諭の指導の下、現実の幼稚園現場における幼児との直接的な関わりを通じて幼稚園教諭となるための実践上、研究上の基礎的な能力、態度を養成する。幼稚園の機能と幼稚園教諭の職務、一人ひとりのこどもに寄り添った援助方法を学ぶことで、幼稚園教諭としての使命感、様々な保育を通じた実践的指導力の基礎を体得し、幼稚園教諭の実践上の課題を解決していく上で必要とされる資質、能力を培う。その上で、後半の実習に向けての自己課題を明確にする。			
授業の概要 第1週目は、観察実習として客観的に保育を見ることが中心となる実習を行う。第2週目は参加実習として教師の助手的な立場で、実際に幼児と触れ合いながら保育に参加する実習を行う。			
実習内容 1. 第1週：1～5日目：観察実習 ・ こどもの身体発達の状況（体の大きさ、運動能力など）を把握する。 ・ 遊びの様子(何を、誰と、どこで、どのように展開しているか)を知る。 ・ コミュニケーションの状況（言葉の発達と理解について、友達関係など）を知る。 ・ 教師の援助の様子を知り、その意味を考える。 2. 第2週：6～10日目：参加実習 ・ 事前に幼児の情報（名前、遊び、友達、興味など）を集める。 ・ 担任の指導計画を把握し、こどもの主体的な活動を尊重し、遊びに参加する。 ・ 特に指示のない限りは、どのこどもにも平等に保育者として接する。 ・ 活動に参加する中でこどもの様子を把握する。			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 「教育実習事前・事後指導」田治米富子・堀和弘／著（豊岡短期大学） 「保育実習・教育実習の設定保育」片山紀子／編（朱鷺書房） 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
学生に対する評価 実習先からの成績評価をもとに普段の授業態度や生活態度を加味し、評価する。			

授業科目名：（選） 幼児教育研究Ⅰ		授業形態：実習	単位：2単位 授業時間数：80H
学外実習		・ 幼児教育研究Ⅰ	
佐々木 涼	[実 務 経 験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・障害児保育・児童文化財分野		
森山 睦美	[実 務 経 験]保育士・幼稚園教諭・新人研修		
授業の到達目標及びテーマ この授業は学生自身が主体的に学ぶことを目的としている。幼児教育への研究等を積極的に行うことによって、幼児教育への理解を深める。			
授業の概要 幼児教育の研究等を通して、こどもへの理解を深める。			
授業計画 ボランティア等に積極的に参加し、 こどもを取り巻く現代社会の問題点について 調査・研究を行い、考察する。 例) こどもの虐待 こどもと貧困 こどもの発達障害 等			
1. オリエンテーション 2. 幼児教育についての研究テーマの決定 3. 研究計画立て 4. 調査・研究 5. " 6. " 7. " 8. " 9. 中間発表・フィードバック 10. 調査・研究 11. " 12. " 13. " 14. " 15. 研究課題の総括			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 図書館やインターネットを活用すること。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

こども未来学科
令和 7 年度 3 学年用 前期シラバス

筑波研究学園専門学校

令和7年度 3学年 前期シラバス

目 次

こども未来学科 幼児保育コース・幼児スポーツコース・幼児音楽コース

【教科目名】	【授業科目名】	ページ数
保育の内容・方法に関する科目		
	こどもの健康と安全	1
	こどもと音楽Ⅰ（合唱）	2
	音楽表現Ⅴ	3
総合演習		
	保育教職実践演習	4
保育実習		
	（選）保育実習Ⅱ（保育所）	5
	（選）保育実習Ⅲ（施設）	6
	（選）保育実習指導Ⅱ（保育所）	7
	（選）保育実習指導Ⅲ（施設）	8
学外実習		
	教育実習事前事後指導Ⅱ	9
	（選）教育実習Ⅱ	10
	（選）幼児教育研究Ⅱ	11
表現		
	表現Ⅰ	12
	表現Ⅱ	13
卒業研究		
	卒業研究Ⅰ	14

授業科目名：こどもの健康と安全		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：15H
保育の内容・方法に関する科目		・こどもの健康と安全	
荻根 文江	[実 務 経 験]看護師		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。			
・ 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。			
・ こどもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。			
・ 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。			
・ 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、こどもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。			
・ こどもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。			
授業の概要			
こどもの心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考え、健康増進のための適切な関わりについて学ぶ。そして関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、感染症対策、衛生管理、安全対策、危機管理、災害対策について理解する。			
授業計画			
1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	①こどもの健康と保育の環境		
2. 〃	②こどもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理		
3. 保育における健康及び安全の管理	①衛生管理 ②事故防止及び安全対策		
4. 〃	③危機管理 ④災害への備え		
5. こどもの体調不良等に対する適切な対応	①体調不良や傷害が発生した場合の対応		
6. 〃	②応急処置 ③救急処置及び救急蘇生法		
7. 感染症対策	①感染症の集団発生の予防		
	②感染症発生時と罹患後の対応		
8. 保育における保健的対応	①保育における保健的対応の基本的な考え方		
9. 〃	②3歳未満児への対応		
10. 〃	③個別的な配慮を要する子どもへの対応 (慢性疾患、アレルギー性疾患等)		
11. 〃	④障害のある子どもへの対応		
12. 健康及び安全の管理の実施体制	①職員間の連携・協働と組織的取組		
13. 〃	②保育における保健活動の計画及び評価		
14. 〃	③母子保健・地域保健における自治体との連携		
15. 〃	④家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携		
テキスト			
「こどもの健康と安全」松田博雄、金森三枝／編（中央法規）			
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価			
提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：こどもと音楽Ⅰ（合唱）		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：30H
専門科目		・音楽	
倉田 照子	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・ 児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育分野		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
柴野 玲子	[実務経験]ピアノ・エレクトーン講師		
唐澤 優江	[実務経験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「表現」分野		
授業の到達目標及びテーマ 自らの感性を磨くことを目標に学んできた3年間の音楽の授業の集大成として、全員で一つの音楽を創り上げる。さらに音楽表現を通して人に感動を与えることを目標に学び、実際に体得する。			
授業の概要 卒業音楽発表会、文化祭に向けて練習を重ねていく中で、音楽が人間教育に欠かせないものであることを自らの体験を通して学び、歌を通じた自己表現につなげる。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 2. 楽曲についての理解、発声練習 3. 発声練習，パート分け 4. パートごとの音取り①（発声練習は継続して行う） 5. 〃 ② 6. 〃 ③ 7. 〃 ④ 8. 〃 ⑤ 9. 〃 ⑥ 10. 合唱練習① 11. 〃 ② 12. 〃 ③ 13. 〃 ④ 14. 〃 ⑤ 15. 〃 ⑥			
テキスト 楽譜を配布する。			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 出席を重視し、授業態度、課題達成度を総合して評価する。			

授業科目名：音楽表現Ⅴ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：40H
保育の表現技術		・保育の表現技術	
領域および保育内容の指導法に関する科目		ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育部非常勤講師		
倉田 照子	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育・保育内容「言葉」分野		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
重藤 清美	[実務経験]ピアノ講師		
柴野 玲子	[実務経験]ピアノ・エレクトーン講師		
塚田 規子	[実務経験]ピアノ講師		
佐藤 いづみ	[実務経験]ピアノ講師		
関 義夫	[実務経験]ピアノ講師		
入江 亜矢子	[実務経験]ピアノ講師		
片岡 麻衣	[実務経験]中学校教諭・ピアノ講師・リトミック指導員		
授業の到達目標及びテーマ			
保育内容に沿って、こどもの音楽活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成（情緒・表現・鑑賞等）を育成することをテーマに学習する。 現場での即戦力となる弾き歌いのレパートリーを各自のレベルに応じて広げ、同時に現場での多様なニーズに対応できるように、実践的で応用性のある音楽的能力を養う。			
授業の概要			
ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身に付ける。また、音楽の様々な要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュを行う。実技習得は各自の習得度に応じた個別指導を行う。			
授業計画			
1. オリエンテーション	9.	〃	
2. 実習に向けて弾き歌いのレパートリーを広げていく。課題曲と個々の習得度を考慮した曲を選び学習する。（個人レッスン）	10.	〃	
	11.	〃	
	12.	〃	
3. ソルフェージュの継続的練習と弾き歌いの実践	13.	発表会形式によるプレテスト	
4. 〃		（弾き歌いの成果を互いに聴く）	
5. 〃	14.	プレテストの課題をもとに練習	
6. 〃	15.	〃	
7. 〃			
8. 〃			
テキスト			
こどもの指導法「音楽表現」西野洋子 茨木金吾 國光みどり 石川ますみ 田上栄美子 菅原峰子／編（豊岡短期大学）			
参考書・参考資料等			
「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会／編著（音楽之友社） 「こどものうた200」小林美実／著（チャイルド本社） 弾き歌いプリントを授業時に配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、授業態度、実技試験等の結果を総合して評価する。			

授業科目名：保育教職実践演習		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：30H
教育実践に関する科目		ロ 教職実践演習	
大森 淳子	[研究テーマ] 幼児教育・音楽教育・保育内容「表現」分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師		
押手 美加	[実務経験] ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ] 音楽教育分野		
大塚 由利子	[実務経験] 幼稚園教諭・保育士 [研究テーマ] 乳幼児保育分野		
唐澤 優江	[実務経験] 高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ] 舞踊教育・幼児体育・保育内容「健康」分野		
授業の到達目標及びテーマ 3年間で学んだ学習知と教育実習等で得られた指導力や実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏付けされた確かな実践的指導力を身に付ける。幼稚園における実践を中心としているが、幼稚園と小学校のつなぎ、保育所と幼稚園の連携等を十分に意識し、教育現場・保育現場で直面する問題に対して対応力を学ぶ。			
授業の概要 これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。			
授業計画 1. 教師という職業 2. 保育者の資質についての理解 3. 学級経営 4. 発達障害について 5. 統合保育について 6. 特別支援教育の基礎 ①理念と制度、システム 7. 〃 ②支援の留意点、保護者への対応 8. 保育における集団の編成 9. 幼児教育の将来的展望 10. 幼保小連携 11. 保育実習の振り返り 12. 施設実習の振り返り 13. 課題の発見と課題の明確化 14. 課題を踏まえて自身の保育者の資質についての見解 15. 学習のまとめ			
テキスト 「保育・教職実践演習」上長然・國光みどり／著（豊岡短期大学） 「教職論」原田敬文・丹波政俊・吉益敏文／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 その都度プリントを配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：（選） 保育実習Ⅱ（保育所）		授業形態：実習	単位：2単位 実習時間数：80H
保育実習		・保育実習Ⅱ	
大森 淳子	[研究テーマ]幼児教育・音楽教育・保育内容「表現」分野 豊岡短期大学教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
押手 美加	[実 務 経 験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
大塚 由利子	[実 務 経 験]保育士・幼稚園教諭・実習生受け入れ実務 [研究テーマ]乳幼児保育分野		
福田 翔平	[実 務 経 験]茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の概要			
乳幼児と実際にかかわりながら、保育の理論と実践の関係について学び、こどもの姿からよりよい保育について考え、指導計画を作成し、指導実習を行う。自身のこどもとのかかわりの中から、客観的に察する力や今後の課題について考える。			
実習内容			
1. 保育所の役割や機能の具体的展開 ①養護と教育が一体となって行われる保育 ②保育所の社会的役割と責任			
2. 観察に基づく保育の理解 ①こどもの心身の状態や活動の観察 ②保育士等の援助や関わり ③保育所の生活の流れや展開の把握			
3. こどもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 ①環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 ②入所しているこどもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 ③関係機関や地域社会との連携・協働			
4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 ①全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 ②作成した指導計画に基づく保育の実践と評価			
5. 保育士の業務と職業倫理 ①多様な保育の展開と保育士の業務 ②多様な保育の展開と保育士の職業倫理			
6. 自己の課題の明確化			
テキスト			
「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「幼稚園保育所実習パーフェクトガイド」小櫃智子他／著（わかば社）			
学生に対する評価			
実習先からの成績評価をもとに普段の授業態度や生活態度を加味し、評価する。			

授業科目名：（選） 保育実習Ⅲ（施設）		授業形態：実習	単位：2 単位 実習時間数：80H
保育実習		・ 保育実習Ⅲ	
大森 淳子	[研究テーマ] 幼児教育・音楽教育・保育内容「表現」分野 豊岡短期大学教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
押手 美加	[実 務 経 験] ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ] 音楽教育分野		
大塚 由利子	[実 務 経 験] 保育士・幼稚園教諭・実習生受け入れ実務 [研究テーマ] 乳幼児保育分野		
福田 翔平	[実 務 経 験] 茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ] デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 ・ 家庭と地域の生活実態にふれて、こども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 ・ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ・ 実習における自己の課題を理解する。			
授業の概要			
保育実習Ⅰでの課題と向き合う。こどもや利用者の最善の利益を考慮した保育を実践的に理解するとともに保育の計画や実践についてより深く理解する。ケアの方法を中心として保育士の専門性や職業倫理についても実践的に学ぶ。			
実習内容			
1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能			
2. 施設における支援の実際			
①受容し、共感する態度			
②個人差や生活環境に伴うこども（利用者）のニーズの把握とこども理解			
③個別支援計画の作成と実践			
④こども（利用者）の家族への支援と対応			
⑤各施設における多様な専門職との連携・協働			
⑥地域社会との連携・協働			
3. 保育士の多様な業務と職業倫理			
4. 保育士としての自己課題の明確化			
テキスト			
「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子他／著（わかば社）			
学生に対する評価			
実習先からの成績評価をもとに普段の授業態度や生活態度を加味し、評価する。			

授業科目名：（選） 保育実習指導Ⅱ（保育所）		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：20H
専門科目		・学外実習	
押手 美加	[実 務 経 験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
福田 翔平	[実 務 経 験]茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
大塚 由利子	[実 務 経 験]保育士・幼稚園教諭・実習生受け入れ実務 [研究テーマ]乳幼児保育分野		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・ 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。 ・ 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。			
授業の概要			
保育実習Ⅰでの課題と向き合う。保育の内容や方法、形態、表現技術等についての実践的な力量を 培い、一人ひとりのこどもへの適切な関わりについて学ぶとともに保護者支援の方法についても理解 する。保育士の専門性や職業倫理についても実践的に学ぶ。			
授業計画			
1. 保育実習による総合的な学びについて 2. こどもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 3. こどもの保育と保護者支援 4. こどもの状態に応じた適切な関わり 5. 保育の知識・技術を活かした保育実践 6. 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 7. 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 8. 保育士の専門性と職業倫理 9. 部分実習指導案作成① 10. 〃 ② 11. 責任実習指導案作成① 12. 〃 ② 13. 〃 ③ 14. 実習の総括と自己評価 15. 課題の明確化			
テキスト			
「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：（選） 保育実習指導Ⅲ（施設）		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：20H
専門科目		・学外実習	
押手 美加	[実 務 経 験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
福田 翔平	[実 務 経 験]茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
大塚 由利子	[実 務 経 験]保育士・幼稚園教諭・実習生受け入れ実務 [研究テーマ]乳幼児保育分野		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・ 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して理解する。 ・ 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。			
授業の概要			
保育実習Ⅰでの課題と向き合う。こどもや利用者の最善の利益を考慮した保育を実践的に理解するとともに保育の計画や実践についてより深く理解する。ケアの方法を中心として保育士の専門性や職業倫理についても実践的に学ぶ。			
授業計画			
1. 保育実習による総合的な学びについて			
2. こどもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解			
3. こどもの保育についての理解と実践			
4. こどもの状態に応じた適切な関わり			
5. 保育の知識・技術を活かした保育実践			
6. 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践			
7. 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善			
8. 部分実習指導案作成①			
9. 〃 ②			
10. 責任実習指導案作成①			
11. 〃 ②			
12. 〃 ③			
13. 〃 ④			
14. 実習の総括と自己評価			
15. 課題の明確化			
テキスト			
「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：教育実習事前事後指導Ⅱ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：20H
専門科目		・学外実習	
倉田 照子	[実務経験]小学校教諭・中学校教諭（音楽） [研究テーマ]教育・保育内容「言葉」分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育部非常勤講師		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
福田 翔平	[実務経験]茨城県保育士養成校連絡会担当 [研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
大塚 由利子	[実務経験]幼稚園教諭・保育士 [研究テーマ]乳幼児保育分野		
授業の到達目標及びテーマ 教育実習に向けての準備を行う。幼稚園の機能と役割、実習の目的・意義、観察や記録の仕方、実習日誌の書き方、指導案作成など、実習の基本的な知識、技術、意識を学ぶことを目的とする。			
授業の概要 実習の意義と目的、実習生としての心構えを確認しながら、幼児の発達の特徴や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点や方法、指導案作成等の習得に努める。			
授業計画 1. オリエンテーション 2. 日誌の確認 3. 実習の意義 4. 教育・保育・養護とはなにか 5. 保育者の資質と役割 6. 保育者に求められるもの 7. こどもの理解 8. 環境を通して行う教育 9. 遊びを通しての総合的な指導 10. 環境構成 11. 指導案作成：指導案作成の実際① 12. " ② 13. " ③ 14. " ④ 15. 実習の総括と評価、課題の明確化：①幼児理解と学び ②保育者の活動からの学び			
テキスト 「保育所保育指針解説書」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：（選）教育実習Ⅱ		授業形態：実習	単位：2単位 実習時間数：80H
教育実践に関わる科目		イ 教育実習	
倉田 照子	[実務経験]小学校教諭・中学校教諭（音楽） [研究テーマ]教育・保育内容「言葉」分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 幼稚園教諭の指導の下、現実の幼稚園現場における幼児との直接的な関わりを通じて幼稚園教諭になるための実践上、研究上の基礎的な能力、態度を養成する。幼児の発達、個人差を踏まえた理解を深め、教員間のチームワークや他の機関との連携を学ぶことを通して、幼稚園教諭としての使命感、様々な保育を通した実践的指導力の基礎を体得し、幼稚園教諭の実践上の課題を解決していく上で必要とされる資質、能力を培う。また、教育者としての職業倫理を理解する。			
授業の概要 第1週目は、こどもとの関わりの中から、自身を客観的に省察する力や今後の課題について考えていく。第2週目は、こどもの姿からより良い幼児教育について考え、指導計画を作成し、指導実習を行う。			
実習内容 1. 第1週：1～5日目 参加実習（部分実習） ・幼稚園の教育実践に参加・体験することにより、教育者に必要な資質や能力を養う。 ・多様な幼稚園の役割や機能について理解を深め、教育者間や他機関と連携を学ぶ。 ・幼稚園におけるこどもの活動と指導計画について理解する。 ・幼稚園における教育者の役割と指導方法について理解する。 2. 第2週：6～10日目 参加実習（責任実習） ・可能な範囲で部分実習、指導実習を行う。 ・子育て支援についての現状を知る。（預かり、延長、未就児保育等） ・保護者への対応について学び、家庭や地域との連携、教育者間の連携、チームワークを学ぶ。 ・教育者としての職業倫理を学ぶ。			
テキスト 「教育実習指導事前・事後指導」田治米富子・堀和弘／著（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 「幼稚園保育所実習パーフェクトガイド」小櫃智子・他／著（わかば社）			
学生に対する評価 実習先からの成績評価をもとに普段の授業態度や生活態度を加味し、評価する。			

授業科目名：（選） 幼児教育研究Ⅱ		授業形態：実習	単位：2 単位 授業時間数：80H
専門科目		・学外実習	
木村 祐介	[実 務 経 験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学		
大塚 由利子	[実 務 経 験]幼稚園教諭・保育士 [研究テーマ]乳幼児保育分野		
唐澤 優江	[実 務 経 験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「健康」分野		
授業の到達目標及びテーマ この授業は学生自身が主体的に学ぶことを目的としている。幼児教育への研究等を積極的に行うことによって、幼児教育への理解を深める。			
授業の概要 幼児教育の研究等を通して、こどもへの理解を深める。			
授業計画 ボランティア等に積極的に参加し こどもを取り巻く現代社会の問題点について 調査・研究を行い、考察する。 例) こどもの虐待 こどもと貧困 こどもの発達障害 等 1. オリエンテーション 2. 幼児教育についての研究テーマの決定 3. 研究計画立て 4. 調査① 5. 〃 ② 6. 研究① 7. 〃 ② 8. 〃 ③ 9. 中間発表 10. フィードバック 11. 課題の明確化 12. 再調査 13. 研究① 14. 〃 ② 15. 総括			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 図書館やインターネットを活用すること。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：表現Ⅰ		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
専門科目		・表現	
大森 淳子	[実務経 験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育・保育内容「表現」分野		
倉田 照子	[実務経 験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・ 児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育・保育内容「言葉」分野		
柴野 玲子	[実務経 験]ピアノ・エレクトーン講師		
押手 美加	[実務経 験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
新関 美保	[実務経 験]吹奏楽団主宰		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
唐澤 優江	[実務経 験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「健康」分野		
授業の到達目標及びテーマ 音楽による表現、言葉による表現、身体表現、造形表現など保育の技術を活かして、自己表現することで作品を創りあげていく。また、仲間とともに自身の感性を磨き、人を感動させること、人の心を捉える表現について考察する。			
授業の概要 感性が豊かで、伸び伸びと表現をすることの力を育むためには、保育者自身が同様に豊かな感性をもち、生き生きと表現する能力を持たなければならない。ここでは歌唱、器楽、演劇、創作ダンスなどに分かれ、それぞれのグループがどのような形でどのような表現をし、何を伝えていくか、練習計画やその方法などを話し合いながら進めていく。学年末には、一つのテーマをもった卒業研究発表会に繋げていく。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 2. グループ協議 3. 音楽、美術の計画 4. 研究計画の作成 5. 個人研究① 6. 〃 ② 7. 〃 ③ 8. 共同研究① 9. 〃 ② 10. 〃 ③ 11. 全体練習① 12. 〃 ② 13. 〃 ③ 14. 中間発表準備① 15. 〃 ②			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリントを配布する。			
学生に対する評価 出席を重視し、授業態度、課題達成度を総合して評価する。			

授業科目名：表現Ⅱ		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
専門科目		・表現	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育・保育内容「表現」分野		
倉田 照子	[実務経験]ピアノ講師・小学校・中学校教諭（音楽）・声楽家・児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育・保育内容「言葉」分野		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
新関 美保	[実務経験]吹奏楽団主宰		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
唐澤 優江	[実務経験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「健康」分野		
授業の到達目標及びテーマ 音楽による表現、言葉による表現、身体表現、造形表現など保育の技術を活かして、自己表現することで作品を創りあげていく。また、仲間とともに自身の感性を磨き、人を感動させること、人の心を捉える表現について考察する。			
授業の概要 それぞれの表現の特徴を理解し、それが最大限に生きるような表現方法を探し出す。グループ全体が納得し、同じ温度を保ちながら一つの目標に進んでいくことが求められる。リーダーとしての統率力や協調性を育むことも必要になる。互いを思いやる心も育てながら、豊かな表現とは何かを考えていく。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 2. グループ協議 3. 音楽、美術の計画 4. 研究計画の作成 5. 個人研究① 6. " ② 7. " ③ 8. 共同研究① 9. " ② 10. " ③ 11. 全体練習① 12. " ② 13. " ③ 14. 中間発表準備① 15. " ②			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリントを配布する。			
学生に対する評価 出席を重視し、授業態度、課題達成度を総合して評価する。			

授業科目名：卒業研究Ⅰ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：20H
専門科目		・卒業研究	
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
唐澤 優江	[実務経験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・ ピラティスインストラクター・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「健康」分野		
授業の到達目標及びテーマ 3年間の保育実技の集大成として卒業研究発表会が位置付けられている。自身の研究課題を考察し論文を作成する。また、発表会上演に向けて実施計画を立て、準備する過程を通して、発表会の意義を明確化し、一つのものを協力して創造する意義を学ぶ。			
授業の概要 こども達の感性を育てるためには保育者自身が感性豊かでなければならない。卒業研究発表会に向けて、表現に取り組んでいるところであるが、この授業では具体的にテーマを掘り下げて研究論文を作成する。			
授業計画 1. グループの決定 2. 各々の役割決定 3. 練習計画の立案 4. 練習計画の決定 5. 課題研究の作成：テーマの決定 6. 課題研究の作成：定義、研究内容の決定① 7. 〃 ② 8. 〃 ③ 9. 〃 ④ 10. 〃 ⑤ 11. 中間発表準備① 12. 〃 ② 13. 〃 ③ 14. 〃 ④ 15. 〃 ⑤			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリントを配布する。			
学生に対する評価 出席を重視し、授業態度、課題達成度を総合して評価する。			

こども未来学科
令和 7 年度 3 学年用 後期シラバス

筑波研究学園専門学校

令和7年度 3学年 後期シラバス

目 次

こども未来学科 幼児保育コース・幼児スポーツコース・幼児音楽コース

【教科目名】	【授業科目名】	ページ数
保育の内容・方法に関する科目		
	こどもと音楽Ⅱ（合唱）	1
	音楽表現Ⅵ	2
保育実技		
	保育実技Ⅴ・Ⅵ	3
表現		
	表現Ⅲ・Ⅳ	4
卒業研究		
	卒業演習	5
	卒業研究Ⅱ	6
	卒業研究発表	7
選択		
	こどもと造形	8
	こどもと体育	9

授業科目名：こどもと音楽Ⅱ（合唱）		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：30H
保育の内容・方法に関する科目		・こどもと音楽Ⅱ（合唱）	
倉田 照子	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育分野		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
授業の到達目標及びテーマ 自らの感性を磨くことを目標に学んできた3年間の音楽の授業の集大成として、全員で一つの音楽を創り上げる。さらに音楽表現を通して人に感動を与えることを目標に学び、実際に体得する。			
授業の概要 卒業音楽発表会に向けて練習を重ねていく中で、音楽が人間教育に欠かせないものであることを自らの体験を通して学び、歌を通じた自己表現につなげる。			
授業計画 1. オリエンテーション 合唱曲音取り 2. 〃 3. 〃 4. 中間試験 5. 合唱練習① 6. 〃 ② 7. 〃 ③ 8. 〃 ④ 9. 合唱「旅立ちの日に」 10. 〃 11. 〃 12. 搬入 13. リハーサル 14. 卒業音楽発表会 15. 総括			
テキスト 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会／編著（音楽之友社） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 必要に応じプリントを配布する。			
学生に対する評価 出席状況、授業態度、実技試験等の結果を総合して評価する。			

授業科目名：音楽表現Ⅵ		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：30H
保育の内容・方法に関する科目		・音楽表現Ⅵ	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学通信教育部非常勤講師 姫路大学通信教育部非常勤講師		
倉田 照子	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育・保育内容「言葉」分野		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
重藤 清美	[実務経験]ピアノ講師		
柴野 玲子	[実務経験]ピアノ・エレクトーン講師		
塚田 規子	[実務経験]ピアノ講師		
佐藤 いづみ	[実務経験]ピアノ講師		
関 義夫	[実務経験]ピアノ講師		
入江 亜矢子	[実務経験]ピアノ講師		
授業の到達目標及びテーマ			
保育内容にそって、こどもの音楽活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人格形成（情緒・表現・鑑賞等）を育成することをテーマに学習する。			
現場での即戦力となる弾き歌いのレパートリーを各自のレベルに応じて広げ、同時に現場での多様なニーズに対応できるように、実践的で応用性のある音楽的能力を養う。			
授業の概要			
歌唱、ピアノ奏法および弾き歌いを中心に学習する。また、理論では保育現場で必要な音楽表現を豊かにするための音楽的知識を学ぶ。実技修得は、各自に習熟度に応じた指導を個別に行う。			
授業計画			
1. オリエンテーション 2. 3. 4. 季節のうたの練習 5. 6. 7. 8. 行事のうたの練習 9. 10. 11. 12. 園生活のうたの練習 13. 14. 15. 遊びうたの練習			
テキスト			
こどもの指導法「音楽表現」西野洋子・茨木金吾・國光みどり・石川ますみ・田上栄美子 菅原峰子／著（豊岡短期大学）			
参考書・参考資料等			
「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会／編著（音楽之友社） 「こどものうた200」小林美実／編（チャイルド社）弾き歌いプリント 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
学生に対する評価			
出席状況、授業態度、実技試験等の結果、各々の進度に見合った評価をする。 積極的に取り組むこと。			

授業科目名：保育実技Ⅴ・Ⅵ		授業形態：Ⅴ 演習 Ⅵ 演習	単位：Ⅴ 2 単位 Ⅵ 2 単位 授業時間数：Ⅴ 60H Ⅵ 60H
保育実技		・保育実技Ⅴ・Ⅵ	
福田 翔平	[研究テーマ]ⅠⅡと人間関係分野		
佐々木 涼	[実 務 経 験]幼稚園教諭 [研究テーマ]児童文化分野		
皆川 龍吾	[実 務 経 験]幼稚園教諭・子ども身体運動発達指導士・幼児体育指導者		
授業の到達目標及びテーマ			
保育実技の集大成として、技術を駆使し、クラスで協力し一つのことを成し遂げる意義を理解する。			
授業の概要			
これまで学んできた保育実技の知識・技術をもって保育室の制作、大型制作をする。制作にあたっては、学年で計画を立て、協力して作りあげていく。			
授業計画			
1. 授業オリエンテーション・保育室制作上の衛生面・安全面について			
2. 保育室制作の計画・立案・大型制作の計画・立案			
3. 保育室制作①			
4. " ②			
5. " ③			
6. 大型制作 ①			
7. " ②			
8. 卒業発表大道具制作①			
9. " ②			
10. " ③			
11. " ④			
12. 指導要録について①			
13. " ②			
14. 保育教材制作①			
15. " ②			
テキスト			
必要に応じプリントを配布する。			
参考書・参考資料等			
プリントなどを講義時に配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、授業中に行う課題発表、提出物等により総合的に評価する。			

授業科目名：表現Ⅲ・Ⅳ		授業形態：Ⅲ演習 Ⅳ演習	単位：Ⅲ・Ⅳ 3 単位 授業時間数：Ⅲ90H Ⅳ90H
表現		・表現Ⅲ・Ⅳ	
大森 淳子	[実 務 経 験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
倉田 照子	[実 務 経 験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・ 児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
押手 美加	[実 務 経 験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
柴野 玲子	[実 務 経 験]ピアノ・エレクトーン講師		
新関 美保	[実 務 経 験]吹奏楽団主催		
唐澤 優江	[実 務 経 験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の到達目標及びテーマ 音楽による表現、言葉による表現、造形表現など保育の技術を活かして、自己表現することで作品を創りあげていく。また、自身の感性を磨き、人を感動させること、人の心を捉える表現について考察する。			
授業の概要 一人ひとりの役割を考えながら計画を立てる。その後、個人練習、全体練習などの技術練習に励む。授業を通し、グループだけでなく、学年全体で協力し、そして全体の中の自分の役割を明確にし、一つのステージを創り上げていくことを大切にしていく。また、人の心を捉える「表現」について考察することができる。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 歌、マリンバ、身体表現、和太鼓、ミュージックベル、バンドの各課題への取り組み 2. 共同研究 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 全体練習 12. 〃 13. リハーサル 14. 卒業音楽発表会 15. 総括			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 その都度、プリントを配布する。			
学生に対する評価 出席を重視し、授業態度、課題達成度を総合して評価する。			

授業科目名：卒業演習		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：30H
卒業研究		・卒業演習	
押手 美加	[実 務 経 験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
唐澤 優江	[実 務 経 験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師		
授業の到達目標及びテーマ 3 年間の保育技術の集大成として卒業発表が位置づけられている。 卒業発表会の開催にあたっての企画、運営面を考え、準備を行う。			
授業の概要 企画、運営の準備、作品研究等の準備等を行う。卒業発表は学年全体で協力していき、全体を運営していくよう一人ひとりが自覚をもって行動する。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 2. 卒業研究作品解説作成 ① 3. 卒業研究作品解説作成 ② 4. パンフレット作成 ① 5. パンフレット作成 ② 5. パンフレット作成 ③ 6. 各係の役割理解 7. 各係の役割決定 8. 各係のマニュアル作成 ① 9. 各係のマニュアル作成 ② 10. 当日のタイムスケジュール作成 11. 照明や舞台装置の検討 ① 12. 照明や舞台装置の検討 ② 13. 会場に提出する書類の作成 14. 会場に提出する書類の確認 15. 会場との打ち合わせ			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 その都度、プリントを配布する。			
学生に対する評価 出席を重視し、授業態度、課題達成度を総合して評価する。			

授業科目名：卒業研究Ⅱ		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：60H
卒業研究		・卒業研究Ⅱ	
押手 美加	[実 務 経 験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
唐澤 優江	[実 務 経 験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・ ピラティスインストラクター・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育・保育内容「健康」分野		
授業の到達目標及びテーマ 3年間の保育技術の集大成として卒業発表が位置づけられている。 この授業では研究論文を作成することで課題の理解を深める。			
授業の概要 研究課題を通して卒業発表会の意義を明確化していく。 課題研究論文の作成をすることで、研究課題の考察をする。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 2. 論文内容の作成 3. " 4. " 5. " 6. " 7. 内容の再検討 8. " 9. 論文内容の修正 10. " 11. " 12. 考察の作成 13. " 14. " 15. 論文完成、提出			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 その都度、プリントを配布する。			
学生に対する評価 出席を重視し、授業態度、課題達成度を総合して評価する。			

授業科目名：卒業研究発表		授業形態：演習	単位：1単位 授業時間数：15H
卒業研究		・卒業研究発表	
大森 淳子	[実務経験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
倉田 照子	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育分野 豊岡短期大学通信教育部・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
押手 美加	[実務経験]ピアノ講師・小学校教諭・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野		
柴野 玲子	[実務経験]ピアノ・エレクトーン講師		
新関 美保	[実務経験]吹奏楽団主催		
唐澤 優江	[実務経験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の到達目標及びテーマ 3年間の保育技術の集大成として位置づけられている。自分たちの課題を見つめ合い、卒業研究発表会を通して集団活動の意義や達成感を味わう。発表会準備、裏方など全体を創り上げていくことで学びを得る。			
授業の概要 自分の様々な感情と向き合い、理解する。相手の気持ちを受けとめ、協調性やコミュニケーション能力を養うことで、社会人としての素養を身に付ける。			
授業計画 初 日：午後 搬入、照明・舞台打ち合わせ 二日目：午前 グループ別場当たりチェック 午後 全体リハーサル 三日目：午前 グループ別最終確認 午後 本番（卒業音楽発表会）			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 課題達成度を総合して評価する。			

授業科目名：こどもと造形		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：15H
選択		・こどもと造形	
富金原 光秀	[研究テーマ]造形教育分野		
授業の到達目標及びテーマ			
保育の内容を踏まえた造形の基本的な知識の習得を目指し、手の動き・感性・造形的思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。			
授業の概要			
幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとにした色彩分割及び構成学習を行う。また具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、こどもの造形あそびに関わる手法研究を行う。その他、日用品や廃材等を使用して、素材の質感に触れながら感受性を磨き、創意工夫をして材料を貼りつける製作を行う等、造形教育を展開するために必要となる知識や技術について体験的に理解する。			
授業計画			
1. 幼児造形教育の重要性と研究の視点について			
2. 幼児造形教育の重要性と研究の視点について			
3. 幼児造形（表現）の特徴・領域・道筋について			
4. 幼児造形（表現）の特徴・領域・道筋について			
5. えがく領域に伴う製作Ⅰ（えがく活動における指導・援助と実際）			
6. えがく領域に伴う製作Ⅰ（えがく活動における指導・援助と実際）			
7. つくる領域に伴う製作Ⅱ（つくる活動における指導・援助と実際）			
8. つくる領域に伴う製作Ⅱ（つくる活動における指導・援助と実際）			
9. 造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ（造形遊びにおける指導・援助と実際）			
10. 造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ（造形遊びにおける指導・援助と実際）			
11. 造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ（造形遊びにおける指導・援助と実際）			
12. 作品の研究及び発表			
13. 幼児造形教育の課題について			
14. 幼児造形教育の課題について			
15. 総括			
テキスト			
「造形表現論」岩田健一郎・前田豊稔・八木遼蒼・矢元政行・小山貞雄・東山明／著(豊岡短期大学)			
「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）			
「保育所保育指針解説書」（フレーベル館）			
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等			
市販の造形に関する書籍等			
学生に対する評価			
課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：こどもと体育		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：15H
選択		・こどもと体育	
唐澤 優江	[実 務 経 験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・ ピラティスインストラクター・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育分野		
授業の到達目標及びテーマ 運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し具体的な援助方法を習得する。同時に、こどもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。			
授業の概要 こどもの運動遊びの特徴や必要性を発育発達の面から理解しながら、発達段階に応じた運動遊びを準備し、こども達が自主的に楽しく且つ安全に遊びを展開するための援助方法を学ぶ。			
授業計画 1. こどもを取り巻く社会的背景 ①地域社会、社会環境の変化について 2. " ②遊び空間、時間、遊びの仲間、遊び方法の変化について 3. こどもの発育と運動遊びについて ①身体・形態・機能・こころの発育発達 4. " ②こどもの運動能力と運動技能の発達 5. 基本的な動き ①基本運動（歩・走・跳・投・押・引・転・登） 6. " ②運動の機能（調整力：身体認知・空間認識） 7. 用具を使わない遊び ①年齢発達における遊び（ふれあい遊び、ごっこ遊び等） 8. " ②グループ遊び（おおかみさん、はないちもんめ、鬼遊び等） 9. 大型遊具を使った遊び ①すべり台、ジャングルジム 10. " ②ブランコ、シーソー 11. 操作性遊具や器具、身近な素材活用遊び ①操作性遊具・器具活用遊び（ボール、フープ、マット、跳び箱等） 12. " ②身近な素材活用遊び（新聞紙、タオル、段ボール、ペットボトル等） 13. 野外での幼児の遊び ①野外活動の教育的意義と実践上の理解 14. " ②野外活動の実践（水遊び、雪遊び、戸外、森などでの遊び） 15. 遊びと安全管理			
テキスト 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説書」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 必要に応じてプリント等を配布する。			
学生に対する評価 課題および試験等により総合的に評価する。			